

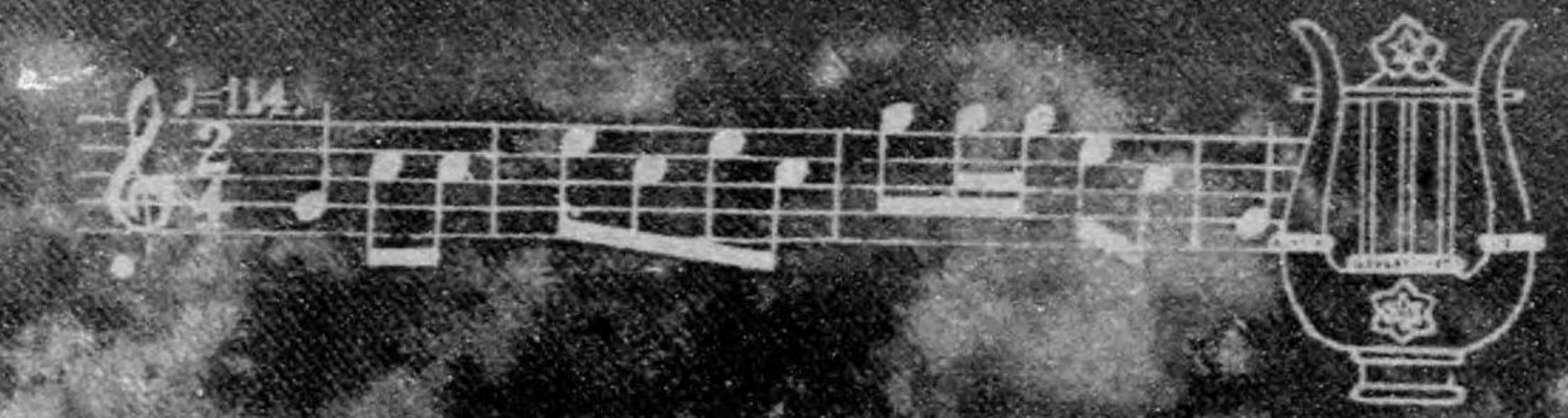
始
以
備
業
者
之
友



始



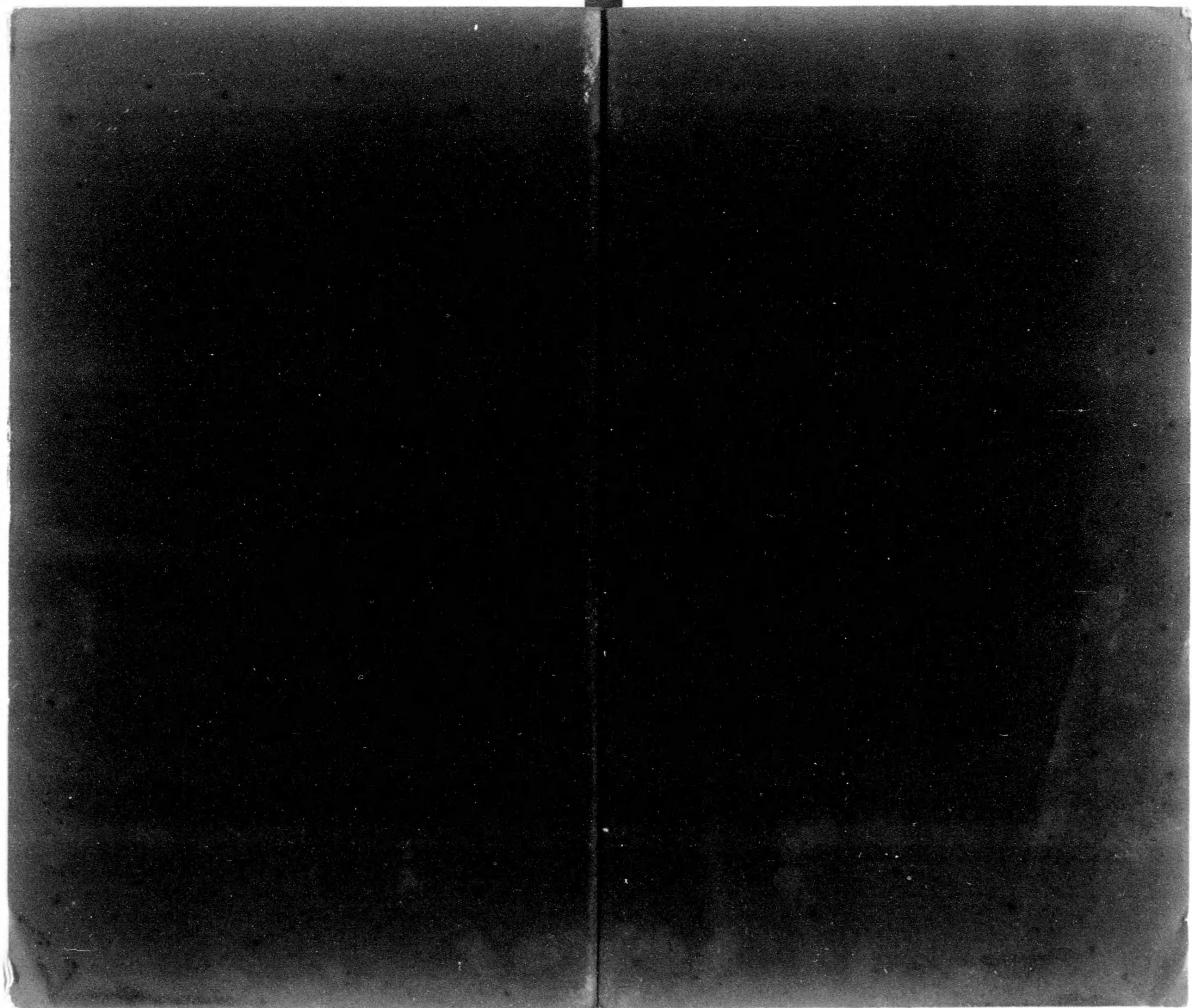
特



武聲居士譜

喇叭手及喇叭修業者之友

附陸軍喇叭譜



武聲居士著

喇叭手及喇叭脩業者之友

附陸軍喇叭ノ譜

大正
3. 12. ●
内交



特101

327

喇叭手及喇叭脩業兵之友

目次

第一章	喇叭手ノ任務及喇叭譜ニ就テ	一
第二章	喇叭ノ構造及名稱ニ就テ	三
第三章	喇叭ノ分解、結合及拭淨ニ就テ	一三
第四章	喇叭毀損ニ關スル重ナル原因	一六
第五章	喇叭取扱上ノ心得	二一
第六章	喇叭保持法	二二
第七章	喇叭吹奏法、喇叭構方及呼吸々收法ニ就テ	二四
第八章	喇叭發音ノ三大要礎	二九
第九章	負銃間ニ於ケル銃ノ保持法及廠金ノ構造ニ就テ	三四

第十章 各兵操典ノ摘要(問答)……………三七

第十一章 陣中要務令及野外要務令ノ摘要(問答)……………四五

第十二章 陸軍禮式摘要(問答)……………四八

第十三章 觀兵式……………五七

第十四章 軍旗迎送式……………六六

第十五章 喇叭譜學理(問答)……………六八

附表 諸音符ノ例……………

附錄

兵器保存要領喇叭ノ部
陸軍喇叭譜
練習五線表

喇叭手及喇叭脩業兵之友

武聲居士著

第一章 喇叭手ノ任務及喇叭

譜ニ就テ

第一 喇叭手ノ任務

抑喇叭手ハ上官ノ命令及號令ヲ喇叭又ハ口頭ヲ以テ
傳達シ其他敬禮ノ爲メ軍隊ノ敬意ヲ代表シ時トシテ
ハ喇叭ノ吹奏ニ依リ軍隊ノ志氣ヲ鼓舞シ其勞ヲ慰セ

シムル等其責任頗ル重大ナルコトヲ自覺セサル可カ
ラス

第二 喇叭譜

陸軍喇叭譜ヲ大別シテ左ノ六種ニ區分ス

一、單(複)數號音

二、敬禮

三、軍隊學校

四、日課諸號音

五、招呼

六、行進曲

第二章 喇叭ノ構造及名稱ニ就テ

第三

喇叭ノ構造ハ左圖ノ如ク(イ)本管(ロ)伸縮管(ハ)口及
屬品ヨリ成ル(第一圖參照)

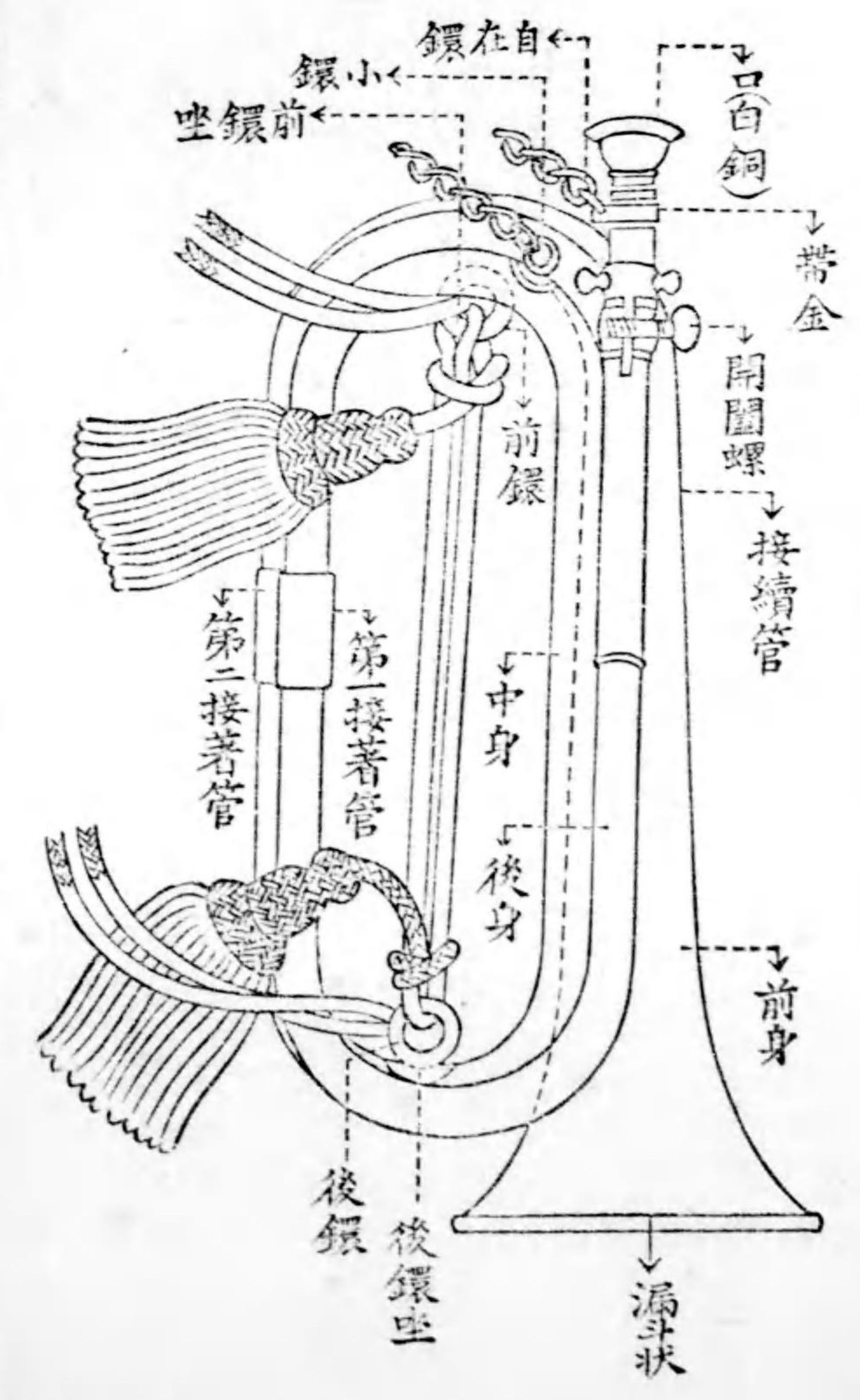
(イ)本管ハ大別シテ左ノ三部ニ分ツ

一、前身(漏斗狀)ヨリ第二接著管ニ至ル部分

二、中身(第二接著管)ヨリ第一接著管ニ至ル部分

三、後身(第一接著管)ヨリ開闔帶ニ至ル部分

第一圖



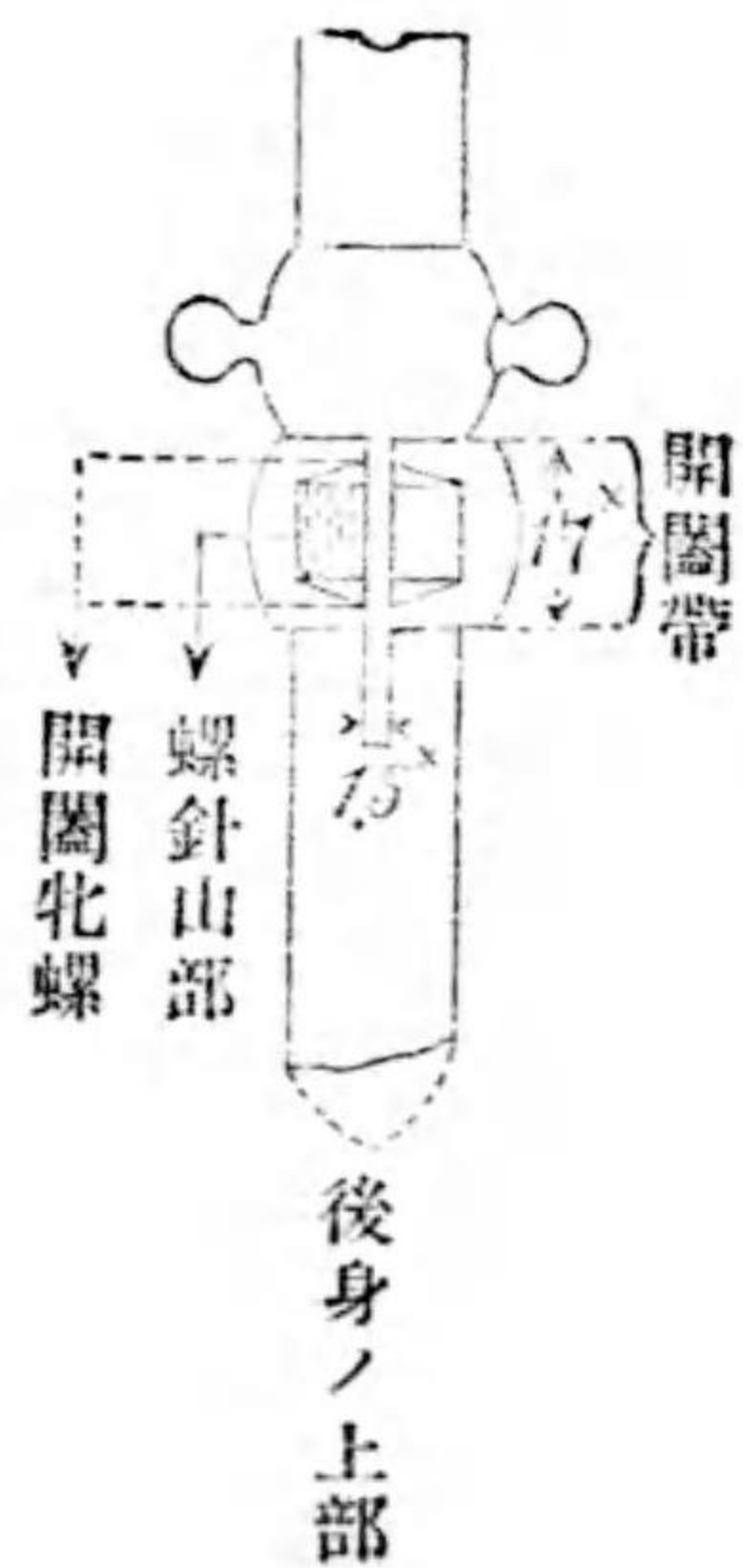
而シテ前身、中身、後身各々第一、第二接著管ヲ以テ連續シ、尙ホ前身ニハ前環及同坐中身ニハ後環及同坐小環及同坐等ヲ一個宛鉸著シ在リ、前後環ハ共ニ飾紐裝著ノ用途ヲ具備シ、小環ハ鎖ヲ裝著スルニ用フ。

開闔帶 (第二圖參照)

開闔帶ハ第二圖ノ形狀ヲ成シ、開闔牝螺鉸著シアリテ、圖ニ示セル如ク、後身上端ノ一部開闔帶牝螺ヲ共ニ丈ケ、約十七耗、幅一耗五、ニ縱繼シアリ、而シテ牝螺左半部

ニ螺針山ヲ設ケ開闔螺々身ヲ以テ共ニ伸縮管ノ伸縮ヲ自在ナラシムルノ効用ヲ爲スモノナリ

第二圖 開闔帶 圖面正 (螺北)



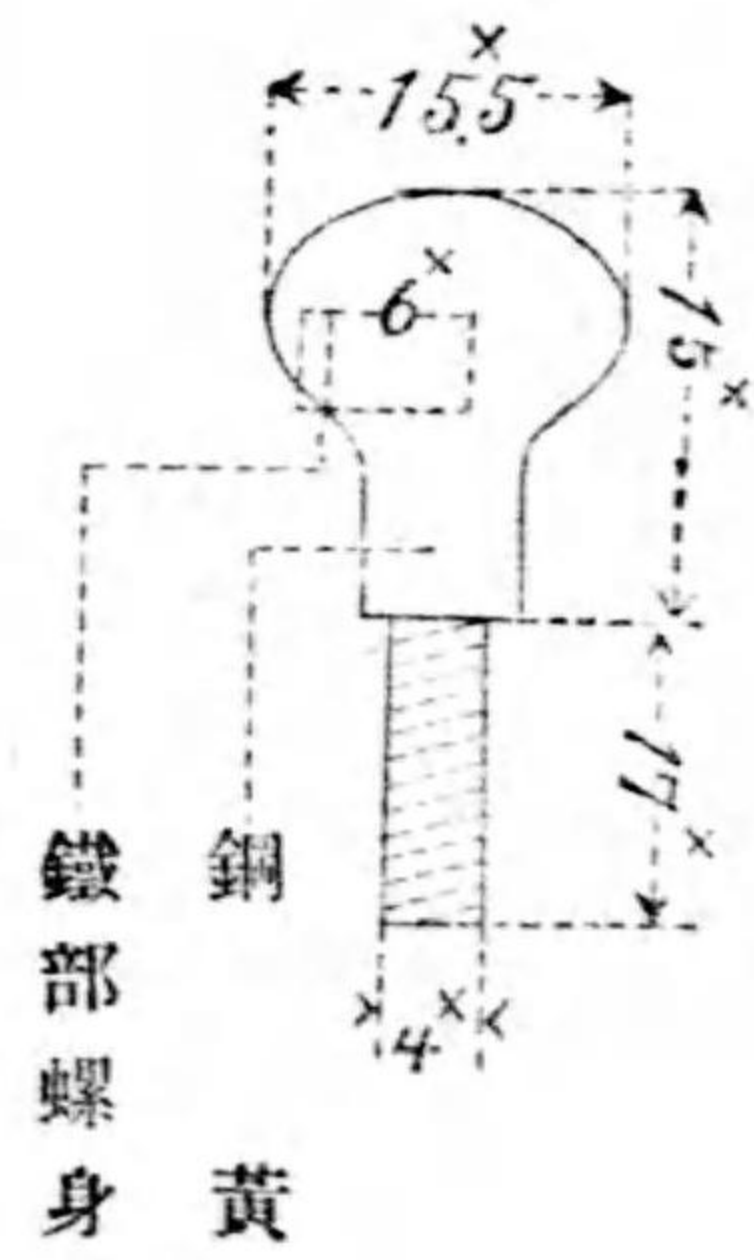
又此ノ縱斷部ハ常ニ約〇耗八ノ間隔ヲ保持シ過度ニ密著セサルモノトス

則チ密著スルノ度ヲ重ネル時ニハ終ニ螺身及牝螺左半部ノ螺針山ヲ摩滅シ從テ伸縮管ハ自然ノ裡ニ伸縮シ音調ヲ規制スルコト不可能トナル所以ナレハナリ

開闔螺 (第三圖參照)

開闔螺ハ第三圖ノ形狀ヲシテ黃銅及鐵ノ兩部ヨリ構成シ面カシテ黃銅部ハ丈ケ十五耗幅十五耗五厚サ一耗五又鐵部ハ上部直徑六耗螺針山部直徑四耗全長十七耗之等兩部ノ全長三十二耗ノモノニシテ鎮銻蠟ヲ以テ鐸著シアリ

第三圖 開闔螺

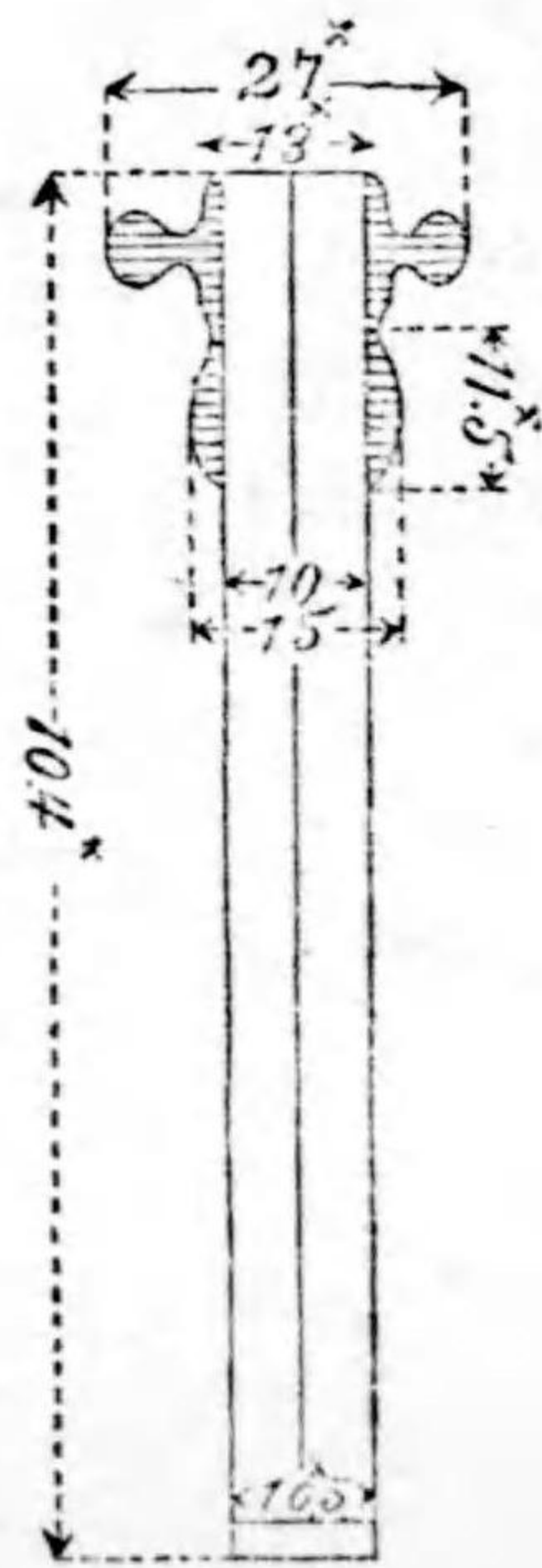


(ロ)伸縮管 (第四圖參照)

伸縮管ハ第四圖ノ形狀ニシテ黃銅ヲ以テ構成セリ圓ノ直徑上部十三耗下部十耗五ノモノニテ後身中ニ裝入ノ度ニ依リ音調ヲ規制スルモノトス而シテ使用者各自呼吸ノ強弱ニ依リ裝入ノ度ヲ定ム

ルモノトス

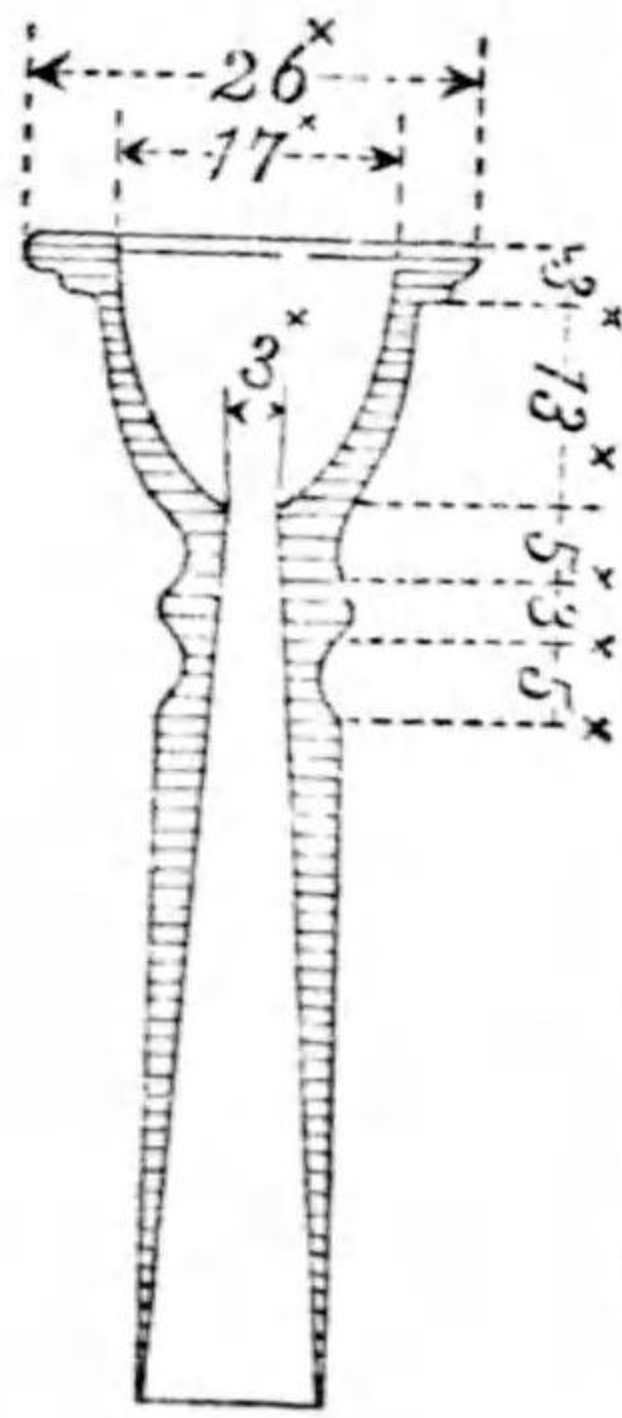
第四圖 伸縮管ノ斷面圖



(ハ)口 (第五圖參照)

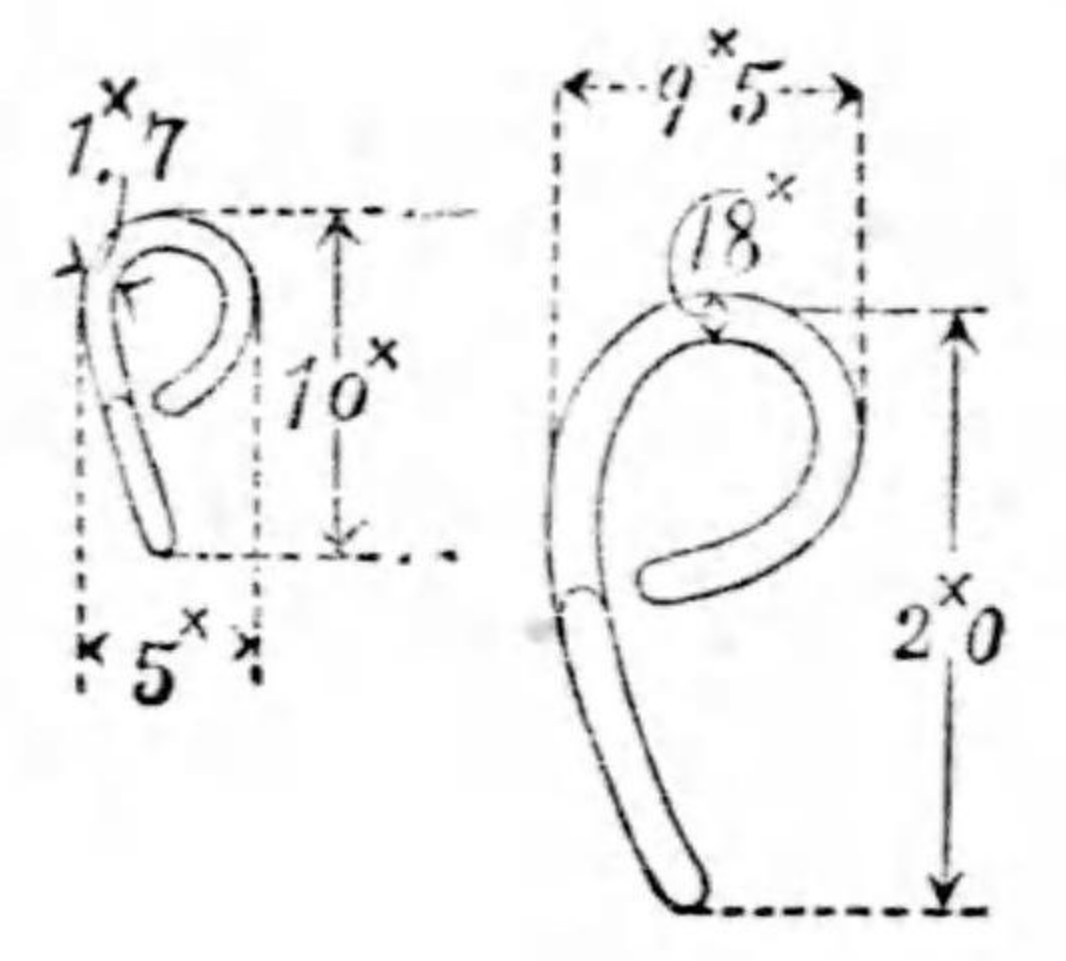
口ハ第五圖ノ形狀ヲ成シ白銅製ニシテ圖ノ如ク帶溝ヲ形成セリ此ノ帶溝ニハ黃銅製ノ帶金ヲ裝著セリ而シテ此ノ帶金ニ小自在環ヲ連著ス

第五圖
口斷面圖



自在鑲ハ鋼鐵製ニシテ大少各々一個宛アリ而シテ大ハ
 中身ニ鉸著セル小鑲ニ裝著シ又小ハ帶金ニ裝著シ在リ
 鎖 (第六圖參照)
 鎖ハ大二個小十九個合計二十一個ヨリ成ル
 大鎖ハ圖ノ如キ形狀ニシテ長二十耗、幅九耗、五直徑一
 耗、八小鎖ハ圖ノ如キ形狀ニシテ長十耗、幅五耗、直徑一

第六圖
大鎖 小鎖




耗七之等二種ノ連續ク全長二百耗ニシテ大鎖ハ小鎖
 ノ兩端ニ連位各大小自在鑲ニ連著シテ口ノ落失ヲ保
 護スルノ効用ヲ爲スモノナリ

(ニ) 屬品

屬品ハ握卷飾紐及拭巾ヨリ成ル

(1) 握卷

握卷ハ黒絨製ニシテ百四十耗平方トシ前中後身ヲ蔽ヒ縫目ヲ前身及中身ノ密著シアル溝部ニ平行ニ縫止メ再ヒ其上ヲ  ノ形狀ニ縫著爲ス可ク制定シアリ

(2) 飾紐

飾紐ハ赤色木綿ヲ以テ製作シアリ此ノ全長四米十珊ニシテ其兩端ニ赤色ノ總ヲ裝著ス總ノ數ハ通常六十

二條ノモノナリ

(3) 拭巾

拭巾ハ白本ネル製ニシテ長サ四百四十耗幅三百〇三耗ノモノニシテ喇叭拭淨ノ際用フルモノニシテ各自ノ口ヲ拭クモノニ非ラサルモノナリ

第三章 喇叭ノ分解、結合及拭淨ニ就テ

第四

喇叭ヲ分解スル時ハ先ツ(イ)口(ロ)開闔螺(ハ)伸縮管ノ順序ニ靜ニ旋回シツ、脱出スルモノトス

又結合ノ際ハ(イ)伸縮管(ロ)開闔螺(ハ)口ノ順序ニ旋回シ
ツ、装入ヲ爲スモノナリ

第五 拭淨ニ就テ

喇叭ヲ拭淨スルニハ柔ナル布片ヲ以テ内(外)部ノ塵ヲ
拂ヒ其後本管ノ内部ハ漏斗狀ヨリ清水ヲ注キ込ミ幾
回モ轉旋シツ、之ヲ適當ニ振り然ル後本管伸縮管口、
開闔牝螺(内)外部ノ油(水)氣ヲ充分ニ拭去リ置モノトス
第六 雨雪天等ニ於テ使用シタルトキハ使用後直ニ手
入ヲ實施シ此際黃銅及鐵部ハ總テ拭巾ヲ以テ拭淨シ

決シテ草藁磨粉類等ヲ以テ拭擦ス可カラス
則チ拭巾以外ノ物質ヲ以テ喇叭ヲ拭擦スルトキハ外
觀頗ル綺麗ナルモ品質薄弱トナリ變形及凹痕ヲ生シ
易ク從テ保存期限ヲ短縮シ加之發音ニ惡影響ヲ及ホ
ス故ニ取扱者各自ハ須カラク保存ヲ良好ナラシム如
ク注意スルコト肝要ナリ

第七 綠鑄ニ就テ

喇叭ニ生スル綠鑄及鏽ハ飽迄モ未發ニ防止セサル可
カラス其ノ手段トシテハ先ツ平素就中雨雪天ニ於ケ

ル使用後ノ手入ヲ行フトキ内(外)部ノ油汗、水氣等ヲ充
分ニ拭キ去リ置クコト最モ肝要ナリ

第四章 喇叭毀損ニ關スル重ナル

原因

第八 本管ノ凹痕ニ就テ

本管ノ凹痕ハ重ニ行進中就中徐歩及駈歩間ニ裝具殊
ニ水筒ト衝突ス

第九 又喇叭手群銃ヲ擔ヒタル時ハ喇叭ヲ概ネ袈裟懸

ヲナス故ニ右ニ隣接スル喇叭手ノ銃劍ノ龍鼻及劍鞘
等ト衝突ス

第十 又吹奏間ニ在テハ左肩ニ負銃ヲ爲ヲ以テ自己ノ
銃劍ノ龍鼻及笛等ニテ銃ノ槓桿部ニ接スル銃床ヲ毀
損スルコトヲ守護セント欲スル感念ヨリシテ自然銃
ヲ左側方ニ支出スルモノ多シ故ニ勢ヒ左隣兵ノ喇叭
ノ漏斗狀及前中後身ト衝突シテ打凹痕ヲ生スルノ基
因ナリ又自己ノ水筒ノ下部ト喇叭ノ中(後)身ノ曲部ト
最モ衝突シ易キモノニテ此ノ部分ハ他ノ部分ト異ナ

リ一度凹痕ヲ生シテ呼吸ノ流通ヲ不能ナラシメタル
トキハ修理ヲ施ス能ハサレハ使用者各自ハ充分顧慮
シ尙亦前諸項ヲ熟讀含味シ決シテ衝突セシメサルコ
ト肝要ナリ

第十一 伸縮管ノ彎曲ニ就テ

喇叭ノ口ヲ伸縮管ニ裝入シテ往々自由ニ脱シ能ハサ
ルコトアリ之等ハ勿論吹奏間唇トノ壓迫ニモ因ルナ
ランモ多クハ口ヲ伸縮管ノ中ニ過度ニ裝入スルヨリ
シテ終ニ口及伸縮管ヲ俱ニ脱出セサレハ不得止ニ至

第十二 鎖ノ伸長ニ就テ

而シテ結局伸縮管ヲ彎曲シ亦鎖ヲ伸長ス故ニ之等裝
入及脱出ヲ行フトキハ靜ニ旋回シツ、爲ス可シ
又行進間喇叭ノ口及伸縮管ヲ握リテ振動スルモ一ツ
ノ原因ナラン此ノ如キ弊習ハ全然止ム可シ
則チ伸縮管ハ一度凹痕ヲ生シタルトキハ後身中ニ裝
入ノ際必ス隙間ヲ生シ呼氣ハ漏レ發音ニ影響スルヲ
以テ充分注意スヘシ

喇叭手入並ニ伸縮管ノ装入ヲ行フトキ口開闔螺及伸縮管ヲ脱出スル順序ヲ矛盾スルニ因ル
 則チ口開闔螺及伸縮管ノ順序ニ靜ニ旋回シツ、裝脱ス可キモノヲ往々口ノ未タ伸縮管ニ装入シ在ル儘ニシテ之等ヲ俱ニ旋回モセス裝脱スルヨリシテ鎖ハ伸長或ハ切斷シ紛失スルニ至ル故ニ取扱者各自ハ諸部分ヲ裝脱スルノ順序方法、竝鎖ノ形狀員數及制規ノ全長等ヲ充分記憶シ完全ニ保持スルコトニ努ム可シ

第五章 喇叭取扱上ノ心得

第十三 喇叭モ亦制式ノ武器ナレハ之ヲ鄭重ニ取扱フノ感念ニ在テハ自己カ銃及銃劍ヲ愛スルノ念慮ト些少タリトモ異ナルヘカラス元來喇叭ノ品質ハ軟ナル黃銅ヲ以テ製作シアリ故ニ之ヲ取扱フモノハ先ツ其ノ極メテ軟質ナルコトヲ自覺シ他ノ物體ト決シテ衝突セシメサルハ勿論常ニ愛護心ヲ以テ叮嚀ニ取扱フ事最モ肝要ナリ

又一面ニハ其ノ取扱法ノ良否ニ依テ取扱者各自ノ精神状態ノ一般ヲ窺フニ足ル
則チ喇叭ハ自己ノ精神状態ヲ代表スルモノナルコトヲ記憶シ慎重ニ取扱フヘキモノナリ

第六章 喇叭保持法

第十四 徒歩ニテ喇叭ヲ携フルニハ飾紐ヲ左肩ヨリ右脇ニ懸ケ右手ヲ以テ喇叭ヲ握ル其法拇指ヲ上ニシ食指ヲ開闔螺ニ接シ其他ノ指ハ食指ト共ニ閉チ接著管

ヲ輕ク右手ノ脈部ニ接シ中指ヲ袴ノ縫目ニ當テ之ヲ水平ニ保チ正シク前方ニ向ハシム
行進スルトキハ之ヲ自然ニ振ル

第十五 馬上ニ在テハ飾紐ヲ左肩ヨリ右脇ニ掛ケ漏斗状ニ近キ紐ヲ開闔螺ニ卷付ケ口ヲ上ニシテ喇叭ヲ右脇ニ垂レ兩手ヲ以テ韁ヲ執ル又隊伍ニ列シアルトキ敬禮ノ列兵ノ拔刀ヲ爲ス場合ニ在テハ韁ヲ左手ニ執リ右手ヲ以テ前項ニ從ヒ喇叭ヲ握リ接著管ヲ左ニシ漏斗状ヲ右股ノ上ニ當テ之ヲ立ツ但シ乘馬及下馬ヲ

爲ニ方リテハ右肩ヨリ之ヲ背ニ負ヒテ行フモノトス
 第十六 喇叭ヲ吹奏スルトキハ接著管ヲ左方ニシ之ヲ
 水平ニ保ツ

第七章 喇叭吹奏法、喇叭構方及呼吸

々收法ニ就テ

第十七 吹奏ヲ開始スル時喇叭ヲ構フルニハ口ノ附近
 迄上ケ下ケノ動作ヲ敏捷ニスルモノトス而シテ上ル
 トキハ口ノ前マテ速ニ運ヒ然ル後静カニ上下唇部ノ

中央ニ當テ接著管ヲ左方ニシテ之ヲ水平ニ保チ決シ
 テ左右ニ偏シテ構ヘサルモノトス
 又構ヘタル時口ヲ過度ニ壓迫スヘカラス之レ吹奏間
 舌尖ハ齒列ト上下唇部トノ間ニ於テ活動ヲ爲スモノ
 ナリ故ニ之等カ喇叭ノ口ノ壓迫ヲ被リタルトキハ其
 活動ヲ妨ケラレ發音至大ノ惡影響ヲ及ホス加之上下
 唇部ノ皮膚ニ擦傷ヲ生スルノ基因ヲナスモノナリ
 又構ヘタルトキハ兩肩ヲ開キ胸ヲ張り視線ハ漏斗狀
 ノ上片端ヲ直視シ眼ヲ左右ニセサルモノトス

第十八 呼吸吸收法

呼吸ヲ吸収スルニハ唱譜及吹奏間ヲ問ハス如何ナル
 場合ト雖モ必ス口ヨリ吸収スルモノトス
 鼻ヨリハ決シテ呼吸ヲ吸収セサルモノトス
 之鼻ヨリスルトキハ充分多量ノ呼吸ヲ吸収シ得ス、而
 シテ腹中ノ呼吸充分ナラサルトキハ一曲ノ最終ノ音
 量ヲ明瞭ニ奏スル能ハス故ニ鼻ヨリ呼吸スル如キ弊
 習ニ慣ルトキハ終ニ身體ノ健康ヲ害シ又時日ノ經過
 スルニ從テ漸次發音ノ性質ヲ不良ナラシムルニ至ル

注意スヘシ

第十九 諸基礎符ニ於ケル呼吸吸收時機

諸基礎符ノ量應用練習符作曲法ノ異ナルニ從テ呼吸
 吸收ノ時機ヲ異ニスト雖モ概ネ左ノ如シ

(イ) 圓符ハ四步毎ニ

(ロ) 白符ハ二步毎ニ

(ハ) 黒符ハ一步毎ニ

(ニ) 鈎符、二鈎音符、

各種三連符等ニ在リテハ其都度指揮者ヨリ指定ス

ルモノトス
 シカテ黒符以下各音符トモ先ツ最初充分呼吸ヲ吸收
 シ最高音終ル迄(自と音)ノ間ニ於テ呼吸ヲ吸收セサル
 モノトス又下降ノ際モ前同様トス
第二十 本符ニ於ケル呼吸吸收時機
 本符ヲ吹奏スルニ當テハ最初充分呼吸ヲ吸收シテ吹
 奏ヲ始メ其他ハ一曲中ノ黙符ヲ用ヒアル所若クハ黒
 符以上ノ音符ノ用ヒアル箇所ニテ口ヨリ呼吸ヲ吸收
 スルモノトス

何故ナレハ吹奏間口ハ勿論鼻等ヨリ不規律ニ呼吸ヲ
 吸收スルトキハ多量ノ呼吸ヲ吸收シ能ハスシテ節調
 ヲ亂シ規定ノ速度ニ適合セサルニ至ル

第八章 喇叭發音ノ三大要礎

第二十一 軍隊喇叭ノ發音ナルモノハ左ニ記ス三作用ノ
 同時ニ行ハレテ初テ完全ナル音調ヲ發シ得モノナリ
 (1) 舌尖當旋ノ作用
 (2) 呼吸氣吐出ノ度ヲ「強」「弱」ニスル作用

(3) 上下唇部全般ノ緩縮ヲ自然ニスル作用

則チ此ノ三作用ノ發音ノ要礎トナルモノナリ

第二十二

喇叭脩業兵初心者ノ心得

一般脩業兵ノ初心者ハ概ネ喇叭ノ發音ハ呼氣ノ作用ノミニテ發音シ得ル如キ感念ヲ有セルモノ多シ之全ク身體ノ健康ヲ害スルノ基因ナリ
何故ナレハ前ニ述タル三作用ニ非サレハ發音シ能ハサルモノヲ只管呼氣ヲ以テ吹奏ヲ爲ント欲ル故ニ腹中ヨリ吐出スル呼氣ハ悉ク喇叭管中ニ注射セラル而

テ此度ヲ重ルニ從ヒ身體ヲ衰弱セシムルニ至ル故ニ諸子ハ先ツ前述ノ三作用ニ非サレハ絶對ニ發音シ能ハサルコトヲ深く記憶スルト俱ニ充分反覆研究且ツ熟練ヲ計リ良習慣ヲ養成スル如ク心懸ケサル可ラス而シテ此ノ三作用ヲ同時ニ行フノ要領ヲ會得シタルトキハ如何ニ呼氣ヲ以テ吹奏セント欲スルモ舌尖之ヲ妨ケ爲メニ喇叭管中ニ注射セラル、呼氣ハ吐出セル全呼氣ノ一部分ノミニ過キササルヲ以テ身體ノ疲勞ヲ減殺シ胸廓ヲ大ニシ肺ヲ强健ナラシメ身體ノ健康

ヲ保持増進スルヲ得テ完全ナル喇叭手タルコトヲ得ルニ至ル

第二十三 唱譜ニ就テ

唱譜ノ練習ヲ行フニ際シテハ最モ正確ニ實行セサル可カラス

則チ「拍子法」各種ノ音色「諸音符」ノ音量等ヲ正確ニ記憶スルト同時ニ各音固有ノ性質ニ依テ發音スルニ必要ナル「舌尖當法」「呼吸強弱法」「上下唇部緩縮法」三作用ヲ同時ニ行フノ要領ハ唱譜練習ニ依テ得ルモノナリ故

ニ其發唱法ノ良否ハ直ニ喇叭吹奏上ノ發音ニ至大ノ影響ヲ與ヘルモノナリ

又一面脩業兵當時ハ此ノ發唱練習ハ異様ノ感動ヲ刺戟シテ兎角等閑ニスルモノ多シ之大ナル「誤解ト言ハサル可カラス

則チ發唱ハ前ニ述ヘタル如ク發音ノ要領ヲ收得スル上ニ就テ必要缺ク可カラサルモノヲ以テ實行ニ當リテハ下腹部ニ力ヲ用ヒ咽喉笛ヲ充分ニ使用スヘシ然ルトキハ多量ノ呼氣ヲ要セスシテ各種ノ音色ヲ完全

ニ發唱スルコトヲ得ルニ至ル

第九章 負銃間ニ於ケル銃ノ保持

法及蕨金ノ構造ニ就テ

第二十四 負銃シタル時ハ左腕ヲ直下ニ伸シ負革ノ内側ヨリ銃把ヲ握ル而シテ拭巾ハ正シク八ツ折ニ重疊シ掌ニ當テ銃把ト俱ニ緊握スルモノナリ

又此際銃ノ槓桿部ニ接スル銃床ト銃劍ノ龍鼻及筒等ト衝突セシメサル如ク注意スルハ勿論ナルモ銃ヲ過

度ニ左側方ニ支出ス可カラス

則チ左隣兵ノ行動ヲ妨ケ加之喇叭ヲ毀損スル憂アレハ充分注意スルコト肝要ナリ

第二十五 蕨金ノ構造

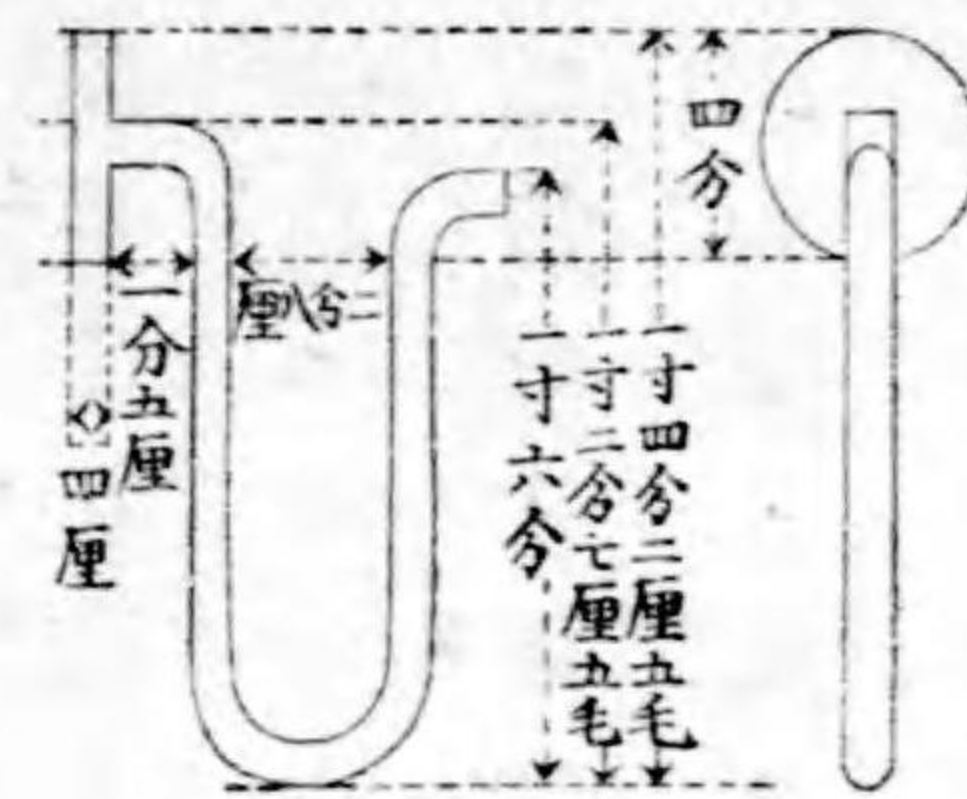
蕨金ハ第七圖ノ如キ形狀ヲナシ其構造ハ黃銅ヲ以テ製作シ圖ノ如ク圓形ノ坐ヲ具備ス之等ハ凡テ眞鍮蠟ヲ以テ密著シアリ

此ノ圓形坐部ハ常ニ肩革ノ下部ニ位置シ摩擦スルコト多ク往々密著シアル部分ヨリ離脱スルコトアルヘ

シ
 スナハ、銃ノ保持上危険ノ憂アリ故ニ停止及行進間ハ勿
 論、駈歩間ハ特ニ銃把ヲ緊握スルコト最モ肝要ナリ

第七圖

藏金



第十章 各兵操典ノ摘要(問答)

一、步兵操典

問 中隊縦隊ニ於ケル喇叭手ノ位置如何

答 第一小隊ノ右翼後々列ヨリ二歩ノ所ニ位置ス

問 中隊散開シタル後チ喇叭手ノ分屬如何

答 一名ハ中隊長ニ他ノ三名ハ各小隊長ニ分屬ス

問 突撃ノ際喇叭手ノ爲ス可キ要件如何

答 著劍ヲ爲シ突撃ノ譜ヲ連奏ス(夜間ハ吹奏セス)

二、工兵操典

問 徒歩中隊縦隊ニ於ケル喇叭手ノ位置如何

答 第一小隊ノ右翼後列ヨリ二歩ノ所ニ位置ス

問 徒歩中隊縦隊ニ於ケル喇叭手ノ運動如何

答 常ニ第一小隊ト共ニ運動ス但シ特務曹長乗馬ス

ルトキハ後尾小隊ト共ニ運動ス

問 中隊突撃ノ際喇叭手ノ爲スヘキ要件如何

答 著劍ヲ爲シ突撃ノ譜ヲ連奏ス但シ夜間ハ喇叭ヲ

吹奏セス

問 中隊散開シタル後喇叭手ノ分屬如何

答 一名ハ中隊長ニ他ハ各分隊長ニ分屬ス

問 作業中隊長中隊ヲ部署セル場合喇叭手ノ配屬如何

答 喇叭手ハ中隊長ニ随フ但シ必要ニ應シ區隊ニ配

屬ス

三、騎兵操典

問 徒歩中隊縦隊ニ於ケル喇叭手ノ位置如何

答 一名ハ中隊長ノ許ニ位置シ其他ノ喇叭手現在ス

ルトキハ先頭小隊ノ押伍列ニ位置ス

問 乘馬中隊横隊ニ於ケル喇叭手ノ位置如何

答 一名ハ中隊長ノ許ニ其他ノ喇叭手ハ第一小隊ノ

後列兵ノ右翼三步ノ所ニ位置ス

問 乘馬中隊縦隊ニ於ケル喇叭手ノ位置如何

答 一名ハ中隊長ノ許ニ其他ハ後尾小隊ノ後列右翼

兵ヨリ三步ノ所ニ位置ス

問 乘馬中隊横隊ノ半輪旋回及中隊縦隊ノ半輪旋回ニ

於ケル喇叭手ノ位置如何

答 横隊ノ半輪旋回ニ在リテハ喇叭手ハ旋回ノ後中

隊ノ左翼ニ位置シ縦隊ノ半輪旋回ニ在リテハ喇

叭手ハ先頭小隊ノ左翼ニ位置ス

問 襲撃ニ於ケル喇叭手ノ爲スヘキ要件如何

答 喇叭手ハ襲撃ノ譜ヲ連奏ス又狀況ニ依リ喇叭ノ

吹奏ヲ禁ス

問 散開襲撃ニ於ケル喇叭手ノ位置如何

答 散開シタルトキハ喇叭手ハ散開線ノ後方六歩押

伍列線上ニテ中隊ノ中央後ニ位置ス

四、輜重兵操典

問 中隊各種隊形ニ於ケル喇叭手ノ位置如何

答 中隊附曹長ノ直後一步ノ所トス

五、野戰砲兵操典

問 徒歩中隊横隊ニ於ケル喇叭手ノ位置如何

答 第一小队ノ後列後二步ノ所ニ位置ス

問 野砲中隊横隊ニ於ケル喇叭手ノ位置如何

答 中隊曹長ノ直後ニ位置ス

問 騎砲中隊横隊及山砲中隊横隊(繫駕)ニ於ケル喇叭手ノ位置如何

答 中隊曹長ノ直後ニ位置ス

問 野砲騎砲山砲(駄載砲車縦隊)ニ於ケル喇叭手ノ位置如何

答 中隊曹長ノ直後ニ位置ス

六、重砲兵操典

問 徒歩中隊縦隊ニ於ケル喇叭手ノ位置及其ノ運動如何

答 第一小隊ノ後列後二歩ノ所ニ位置シ常ニ第一小隊ト共ニ運動ス

問 突撃ニ於ケル喇叭手ノ爲ヘキ要件如何

答 著劍ヲナシ突撃ノ譜ヲ連奏ス

問 中隊横隊ニ於ケル喇叭手ノ位置如何

答 中隊曹長ノ直後トス

問 野戰攻守重砲兵中隊横隊及砲車縦隊ニ於ケル喇叭

手ノ位置如何

答 中隊附下士ノ直後ニ位置ス

第十一章 陣中要務令及野外要務

令摘要(問答)

第二十六 行軍

問 中隊途上縦隊ノ際喇叭手ノ位置如何

答 最先頭ニ行進ス而シテ一名ハ中隊ノ後尾ニ至ル

問 大隊以上行軍ノ際其ノ位置如何

答 大隊ノ喇叭群ハ概ネ先頭ニ行進ス

然レトモ大隊長ノ命ニ依リ其ノ位置ヲ指定セラ
ルハコトアルヘシ

問 喇叭手一人大隊ノ後尾ヨリ行進スル理由如何

答 道路ノ一則ヲ虚ルコト又ハ殊ニ必要ナル時「右」或
ハ「左」ノ號音ヲ吹奏スル爲メナリ

第二十七 宿營

問 警報ノトキ吹奏スル號音如何

答 舍營司令官ノ命ニ依リ「非常」號音ヲ吹奏ス

問 突 然ノ敵襲ノトキ吹奏スル號音如何

答 將校又ハ衛兵司令ノ命ニ依リ「非常」號音ヲ吹奏ス

第二十八 輸送

問 軍隊乗(下)車ニ當テ吹奏スル號音如何

答 輸送指揮官ノ命ニ依リ前ヘノ號音ヲ吹奏ス

第二十九 演習中ノ號音

問 演習再興ノ際吹奏スル號音如何

答 「氣」著ケ「前」ヘノ號音ヲ吹奏ス

問 演習中止スル際吹奏スル號音如何

答 「休メ」ノ號音ヲ吹奏ス

問 團隊副官集合ノ爲メ吹奏スル合音如何

答 「將校」ノ下ニ「一聲」ヲ附シタル號音ヲ吹奏ス

第十二章 陸軍禮式摘要(問答)

第三十 喇叭ヲ手ニシ室外ノ敬禮(單獨)

問 天皇軍旗及直屬上官ニ對スル敬禮法如何

答 喇叭ノ持方ヲ變スルコトナク停止シ目迎目送ノ禮ヲ行フ

問 上官ニ對スル敬禮法如何

答 喇叭ノ持方ヲ變スルコトナク停止間將校ニ對シテハ目迎目送ヲ行ヒ下士兵卒ニ對シテハ姿勢ヲ正シ頭ヲ向テ注目シ又行進間ニ在リテハ正規ノ歩法ヲトリ頭ヲ向ケテ受禮者ニ注目ス

第三十一 軍隊停止間ノ敬禮

問 天皇(皇族)モ同シニ對シ敬禮ヲ行フトキ吹奏スル曲如何

答 車駕隊列ヨリ約二十歩ノ所ニ至ラル、トキ指揮

官ノ號令ト同時ニ喇叭君カ代ヲ吹奏シ始メ隊列ヨリ約十五步過キ去ラル、迄連奏シ指揮官ノ號令ト同時ニ吹奏ヲ止ムモノトス

問 將官ニ對シテ敬禮ヲ行フ時吹奏スル曲如何

答 喇叭海行ハヲ吹奏ス

問 吹奏法ノ區分如何

答 元帥陸軍大臣參謀總長教育總監陸軍大將及特命檢閱使タル將官 三回

陸軍中將 二回

陸軍少將 一回

海行ハヲ吹奏スルモノトス

問 職名及官等ヲ知ルコト能ハサルトキハ如何

答 職名ノ不明ナルトキハ官等ニ應スル回数ヲ吹奏ス又官等モ識別シ得サルトキハ海行ハ單ニ一回吹奏ス

問 軍隊互ニ敬禮ヲ行フトキ吹奏スル曲如何

答 「皇御國」一回吹奏ス

問 軍旗ニ對シテ敬禮ヲ行フトキ吹奏スル曲如何

答 喇叭足曳一回ヲ奏吹ス

問 軍旗ヲ有スル隊ト有セサル隊ト遭遇シタル時吹奏スル曲如何

答 軍旗ヲ有セサル隊ノ喇叭手ハ足曳一回吹奏ス

又軍旗ヲ有スル隊ノ喇叭手ハ皇御國一回吹奏ス

問 武装セサル軍隊敬禮ヲ行フ際喇叭ヲ吹奏スルヤ

答 喇叭ヲ吹奏セス

又武装シタル軍隊ニ附隨シテ武装セサル隊ニ對スルトキモ同シ

問 將校ノ率ユル隊ト下士ノ率ユル隊ト遭遇シタル際

吹奏スル曲如何

答 將校ノ率ユル隊ノ喇叭手ハ吹奏セス

下士ノ率ユル隊ノ喇叭手ハ皇御國一回吹奏ス

問 軍隊拜神ノ際吹奏スル曲如何

答 國ノ鎮一回吹奏ス

第三十二 軍隊行進間ノ敬禮

問 軍隊行進中軍旗上官及他ノ軍隊ニ對シ敬禮ヲ行フトキ吹奏スル曲如何

答 喇叭ハ總テ停止間ニ於ケルト同一ナリ

但シ將校ニ對シテハ何階級タルヲ問ハス海行ハ

ヲ一回吹奏スルモノトス

問 喇叭吹奏中頭右或ハ左ノ號令アリタル際如何

答 頭右又ハ左ヲ爲サス

問 吹キ續キノ爲メ吹奏シ居ラサル者如何

答 前項同様トス

第三十三 衛兵ノ敬禮

衛兵ハ天皇皇族モ同シニ對シテハ門外堵列ヲ爲シ喇

叭手ハ君カ代ヲ吹奏ス

又軍旗將官軍隊ニ對シテハ其所在ノ門ヲ出入スルト

キニ限リ喇叭ヲ吹奏スルモノトス而シテ衛兵ノ敬禮

法ハ總テ軍隊停止間ノ敬禮法ニ據ルヲ以テ喇叭ノ吹

奏法モ之ニ準ス

第三十四 儀式

問 儀仗隊ノ敬禮法如何

答 軍隊ノ敬禮法ニ同シ故ニ喇叭ノ吹奏法モ之ニ準

ス

問 儀仗衛兵ノ敬禮法如何

答 衛兵ノ敬禮法ニ同シ故ニ喇叭ノ吹奏法モ之ニ準ス

問 儀仗衛兵夜間受儀仗者ノ出入ニ際シ敬禮ヲ行フト

答 キ喇叭ヲ吹奏スルヤ
夜間ト雖モ晝間同様喇叭ヲ吹奏ス

第三十五 會葬儀仗

儀仗兵ハ喪家ニ至リ柩ノ出ル際敬禮ヲ行フ時喇叭手ハ吹キナス笛ヲ一回吹奏ス

又葬際場ニ著スレハ葬際終リテ後敬禮ヲ行フ際吹キナス笛ヲ一回吹奏スルモノトス

第三十六 表喪式

喇叭ニ附スル喪章ノ制式ハ幅二寸長二尺ノ黒布ヲ前中後身ニ附著スルモノトス

第十三章 觀兵式

一 觀兵式ヲ分テ閱兵式及分列式ト爲ス
一 閱兵式

閱兵式ニ於ケル各隊喇叭手ノ位置及動作左ノ如シ

(一) 徒歩隊(歩兵、工兵、徒歩編成重砲兵)

徒歩隊ノ喇叭手群ハ各大隊ノ中央ニシテ後尾小隊

前列ヨリ十六歩ノ處ニ二列ニ位置シ喇叭長ハ前列

ノ前方二歩ノ所トス

(二) 乘馬隊(騎兵、輜重兵)

騎兵ノ喇叭手群ハ右翼中隊ノ第一小隊後列兵ノ右

六歩ノ所ニ二列横隊ニ位置シ喇叭長ハ其ノ前列一

歩ノ所トス

輜重兵ノ喇叭手群ハ大隊ノ中央後四歩ニ喇叭長位
置シ喇叭手群ハ其ノ後方一步ノ所トス

(三) 砲兵隊(野砲兵、重砲兵)

野砲兵隊ノ大隊縦隊ヲ併列シタルトキハ聯隊ノ喇

叭手群ノ位置ハ第二中隊ノ右翼ニ又大隊ノ横隊ヲ

一線ニ併列シタルトキハ中央中隊第三、第四砲車ノ

中央後砲口ヨリ十歩ノ所ニ二列横隊ニ位置ス喇叭

長ハ前列ノ前一步ノ所トス

騎砲、山砲隊ノ隊形概ネ之レニ準ス

重砲兵隊ノ大隊横隊ヲ一線ニ併列シタルトキ喇叭
 手群ノ位置ハ右翼中隊ノ中央後第二第三砲車ノ砲
 口ヨリ十六歩ノ所ニ喇叭長位置シ喇叭手群ハ其ノ
 後ニ位置シ又大隊縦隊ヲ併列シタルトキ喇叭手群
 ハ第二中隊ノ右翼ニ位置ス
 天皇式場ニ臨御アラムトスルトキ其ノ稍々前ニ於テ
 諸兵指揮官ハ氣ヲ付ケノ號音ヲ吹奏セシム
 天皇臨御アリタルトキハ諸隊ノ喇叭手群ハ「君カ代」一
 回吹奏ス

又觀閱者タル將官臨場ノ際ニ於ケル諸隊ノ喇叭手群
 ハ其ノ官職ニ應スル回数ニ從ヒ海行カハ「吹奏スル
 モノトス
 天皇觀閱者タル將官各聯隊獨立隊ヲ含ムノ右翼約二
 十歩ノ所ニ到ラルルトキハ各隊敬禮ヲ行フ
 天皇觀閱者タル將官各隊ヨリ約十五歩過キ去ラレタ
 ルトキハ敬禮ヲ止ム但シ甲隊喇叭手群ノ「君ケ代」吹奏
 ハ乙隊喇叭手群ノ吹奏ヲ始メタル時ニ止ムモノト
 ス

観閱者タル將官ニ對シテハ其官職ニ應スル回数ニ從
ヒ海行カハラ吹奏ス

二 分列式

分列式ニ於ケル各隊喇叭手群ノ位置左ノ如シ

一 徒歩隊(歩兵、工兵、徒歩編制重砲兵)

歩兵隊喇叭手群ノ位置ハ甲、乙隊形ニ係ハラス喇
叭長ハ軍旗ノ後方八歩ノ所ニ喇叭手群ハ喇叭長
ノ後方二歩(先頭大隊副官ノ十六歩前)ニ位置シ行
進ス

重砲兵(工兵)隊ノ喇叭長ハ大隊副官附佐官ノ後方
八歩ノ所ニ位置シ喇叭手群ハ喇叭長ノ後方二歩
先頭隊長ノ十六歩前(工兵隊ニ在リテハ先頭隊長
ノ二十四歩前)ニ位置シ行進ス

二 乗馬隊(騎兵、輜重兵隊)

騎兵、輜重兵隊ノ喇叭長ハ聯隊長ノ後方輜重兵大
隊ニ在リテ大隊附佐尉官ノ後列ヨリ二十歩ニ位
置シ喇叭手群ハ其ノ後方先頭隊長ノ二十歩前ニ
位置ス

三、砲兵隊(野砲兵、山砲兵、重砲兵)

野(山)砲兵及重砲兵隊ニ於ル喇叭長ノ位置ハ聯大
隊(副官)附佐官ノ後方十歩ノ所ニ位置シ喇叭手群
ハ喇叭長ノ後方二歩(先頭隊長ノ前二十歩)ノ所ニ

二列横隊ニ位置ス

分列行進ノ命令ニ依リ軍樂隊又ハ先頭部隊ノ喇叭手
群ハ前進ヲ起シ吹奏ヲナス

喇叭手群ハ敬禮點第一標兵ヨリ約二十歩ノ所ニ到リ
タルトキハ左側面行進ヲ爲シ適當ノ距離ニ於テ右ニ

方向ヲ換 天皇又ハ觀閱者ニ正對シ止リ連續吹奏ス
喇叭ヲ吹奏スル分列式ニ於テ後續隊ノ喇叭手群ハ先
行隊ノ後尾敬禮點ヲ通過シ終リタルトキ先行隊喇叭
手群ノ節調ニ準シテ吹奏シ始ムヘシ
此ノ場合ニ於テ先行隊喇叭手群ハ直ニ吹奏ヲ止メ捷
路ヲ經テ所屬隊ニ復歸スヘシ
軍樂ヲ奏スル分列式並乘馬兵ノ速歩若ハ駟歩ヲ以テ
行フ分列式ニ於テハ喇叭手群ハ喇叭ヲ吹奏スルコト
ナク直行ス分列終リタルトキハ各隊ハ逐次諸兵指揮

官ノ定ムル位置ニ到リ指定ノ隊形ヲ作り 天皇ノ還御又ハ觀閱者ノ退場ニ對スル敬禮ノ準備ヲ爲ス

三、還御(還場)

天皇還御ノトキハ喇叭手群ハ車駕場外ニ出ツル迄連續君カ代ヲ吹奏ス
觀閱者タル將官還場ノ時ハ其ノ官職ニ相當ノ海行カハヲ吹奏ス

第十四章 軍旗迎送式

第三十七

軍旗奉迎ノ爲軍旗中隊ハ軍旗ヲ安置シタル家屋ノ前ニ到リ步兵ハ中隊縦隊(騎兵ハ横隊)ニ整列シ此ノ際喇叭手群ハ步兵ニ在リテハ先頭小隊ノ右方(騎兵ハ中隊ノ右方)ニ整列ス
軍旗ニ對シ敬禮スル時喇叭ハ足曳一回ヲ吹奏ス敬禮ノ後喇叭手群ハ軍旗ノ前方四歩ニ移リ行進シ行進中喇叭手ハ喇叭ヲ吹奏ス
軍旗中隊ニシテ聯隊集合場ニ到リタルトキハ聯隊ノ中央前約四十歩ノ所ニ於テ聯隊ニ面シ中隊縦隊

(騎兵横隊)ニ整列ス此ノ際喇叭手群ハ先頭小隊ノ右方騎兵ハ中隊ノ右方ニ整列シ聯隊長ハ其ノ聯隊ヲシテ軍旗ニ對シ敬禮ヲ爲サシメ喇叭手群ハ足曳ヲ吹奏ス敬禮終テ軍旗定位ニ就キタル後軍旗中隊ハ喇叭ヲ吹奏スルコトナク其ノ定位ニ就クヘシ

第三十八 奉送ハ奉迎ト反對ノ順序ニ從ヒ行フモノトス

第十五章 喇叭譜學理

第三十九 (一)音符(二)默符(三)加點(四)三連符

(一)音符

問 音符トハ如何

答 音符トハ發音ノ初ヨリ終リマテニ用フル各種ノ測定記號ナリ

問 各音符ノ名稱如何

答 「圓符」「白符」「黑符」「鉤符」「二鉤音符」等ナリ

問 各音符ノ形狀如何

答 ○「圓符」 ∪ 「白符」 ∩ 「黑符」 ∩ 「鉤符」 ∩ 「二鉤音符」等ナリ

問 各音符ノ音量如何

答 「圓符」四步「白符」二步「黑符」一步「鉤符」半歩「二鉤」音符四半歩

(三) 黙符



問 黙符トハ如何

答 黙止時間ノ各記號ナリ

問 黙符ノ名稱如何

答 「休符」「半休符」「息符」「半息符」「二鉤息符」ノ五名稱ナリ

問 各黙符ノ形狀如何

答  休符  半休符、く 息符、7、半息符、7、二鉤息符

問 各黙符ノ數量如何

答 「休符」四步「半休符」二步「息符」一步「鉤息符」半歩「二鉤息符」四半歩

(三) 加點

問 加點トハ如何

答 各音符ニ附加スル一小點ナリ

問 加點ヲ有スル音(黙符)ノ實量如何

答 其符固有ノ經時ヨリ尙半量ヲ増加ス故ニ二歩ノ符ニ附加セハ三步トナリ一步ノ符ニ附加セハ一步半トナル

(四)三連符

問 三連符トハ如何

答 各音(カクオン)默符(モクフ)ノ等シキ量(リヨク)三群(サングン)上(ジョウ)下(ゲ)ニ「3」ナル數字(スイジツ)ヲ置キテ示ス

問 三連符ノ實行如何

答 其固有量(コトナリヨク)一步半(イツパン)アルモ之ヲ一步間(イツパン)ニ吹奏(スイソウ)シ

又四半歩(シヤンパン)符(フ)ノ三連符(サンレンフ)ハ半歩餘(ハンパンヨリ)ナルモ之ヲ半歩間(ハンパンカン)ニ吹奏(スイソウ)ス

三連符(サンレンフ)ノ例別表(レイベツヘウ)第一圖(ダイトウ)ニ據ル

第三十八 (一)譜表(フヘウ) (二)音名(オンメイ) (三)衝程(チウジョウ) (四)複奏(フクソウ) 及返奏(キヤクソウ)

(一)譜表

問 譜表トハ如何

答 各音(カクオン)默符(モクフ)及其他(ソノタ)ノ記號(キゴウ)ヲ樂理(ガクリ)的(テキ)ニ記ス五水平線(スイヘイセン)

(問)ヲ云フ

譜表(フヘウ)ノ例別表(レイベツヘウ)第二圖(ダイトウ)ニ據ル

問 音部記號トハ如何

答 譜表上ノ初ニアリテハ各音ノ名稱ヲ知ラス 鍵形

記號ナリ

音部記號ノ例別表第三圖ニ據ル

(二)各音

問 各音ノ名稱如何

答 譜表ノ下方ヨリ讀唱シ「ド」と「た」「ち」ノ五名稱

ナリ

問 補線トハ如何

答 五水平線外ニ音符ヲ記ストキ用ル一小線ヲ云フ
 圓符ヲ以テ記シタル五音ノ位置ハ別表(第四圖)ニ
 據ル

(三)衡程

問 樂譜ノ全節調經時ハ何ヲ以テ均等ニ區分シアリヤ

答 縦線ヲ以テ均等ニ區分シアリ

問 縦線ノ種類如何

答 單縦線及複縦線ノ二種アリ 複縦線ハ主ニ一曲ノ
 段落ヲ意味ス

問 衡程トハ如何

答 縦線ト縦線ノ間ヲ云フ

問 衡程間ニ何ヲ記入爲スヤ

答 各種ノ音(默)符ヲ樂理的ニ變案シテ記入ス

衡程及縦線ノ例別表(第五圖)ニ據ル

(四)複奏及返奏

問 複奏記號トハ如何

答 複縦線ニ附著スルニ小點ニシテ二回吹奏スルコ

トヲ意味ス

問 一曲ノ終リニ「I」及「II」ナル括弧アル場合如何

答 最初「I」括弧間ヲ吹奏シ次ニ「II」括弧ヲ超ヘテ「II」


括弧間ヲ吹奏スルモノトス

問 返奏記號トハ如何

答 全樂曲ヲ線返シテ吹奏スヘキ場合ニ用ユル記號

ナリ

問 返奏記號ノ種類如何

答 第一種 DC 第二種  ノ二種アリ

問 各返奏記號ノ位置及用途如何

答 第一種記號ハ樂曲ノ最モ終リニ記入セラレ全曲
ヲ繰返ストキ用フ第二種記號ハ一曲中ニ必ス二
箇所ニ在リテ同一記號間ヲ繰返ス事ヲ意味ス
複奏及返奏ノ例別表(第六圖)ニ據ル

第四十一 (一)拍子(二)舉動

(一)拍子

問 拍子トハ如何

答 各衡程間ノ二、四歩ノ如キ經時ヲ定メル性質ヲ言
フ

問 拍子ノ種類如何

答 各衡程カ二歩ノトキ二拍子又四歩ノトキハ四拍
子ノ二種ナリ

問 拍子記號ノ位置如何

答 音部記號ノ次ニ「2」「4」及「c」ノ記號ヲ以テ示ス
拍子記號ノ例別表(第七圖)ニ據ル

(二)舉動

問 舉動ノ性質如何

答 總テ第一舉動ハ「強」第三舉動ハ「半強」ニシテ他ハ弱

キ性質ノモノナリ

舉動性質ノ例別表(第八圖)ニ據ル

問 移遷舉動トハ如何

答 弱キ舉動カ「強」若クハ「半強」ナル舉動ト連結スルト

キ此ノ弱性ノモノカ強性ニナルト同時ニ之ニ反

シ強性ノモノカ弱性ニ變化スルヲ言フ

移遷舉動ノ例別表(第九圖)ニ據ル

問 拐遷舉動トハ如何

答 樂曲ノ初ハ總テ強性ナルモノナリ故ニ若シ弱性

ニ始マルモノアルトキハ之ヲ強性ニ始ムルヲ言

フ

拐遷舉動ノ例別表(第十圖)ニ據ル

第四十二 (一)正節記號(二)連接(三)通達點(四)停帶點(五)舌旋

法及速度

(一)正節記號

問 正節記號トハ如何

答 各音符ノ上(下)ニ「 γ 」ノ記號ヲ以テ示ス之ヲ正節

記號ト言フ

問 正節記號ノ用途如何

答 喇叭ノ音ヲ強ク若干壓著クル意味アルトキニ用フ

正節記號ノ例別表(第十一圖)ニ據ル

(二) 連接

問 連接トハ如何

答 二個以上ノ同(異)名ノ音符ヲ結合シテ滑ニ吹奏スルトキ弧線ヲ以テ示ス之ヲ連接ト云フ
連接ノ例別表(第十二圖)ニ據ル

(三) 通達點

問 通達點トハ如何

答 通達點ハ音符ノ上ニ占位シ其符量ニ關セス適當ニ長ク吹奏スルコトヲ意味ス

問 通達點ノ用途如何

答 諸號音ノ最モ終リノ音響ヲ遠ク透徹セシムル爲メニ用フ

通達點ノ例別表(第十三圖)ニ據ル

(四) 停帶點

問 停帶點トハ如何

答 複縱線ノ上ニアル通達點ト同形記號ニシテ一

曲ノ段落ヲ意味ス

停帶點ノ例別表(第十四圖)ニ據ル

(五)舌旋法

問 舌旋法トハ如何

答 二個音符ヨリ成ル三連符ヲ吹奏スルトキ舌尖

ヲ速ク且ツ圓滑ニ旋回スルヲ云フ

舌旋法ノ例別表(第十五圖)ニ據ル

問 歩度ノ緩急ハ何ヲ以テ知ラシムルヤ

答 「」=66」又ハ「」=170」ノ如キ記號ヲ以テ譜表ノ初メ

音部記號ノ右上ニ記入シテ示ス

則チ「」=66」ハ一分間ニ六十六歩又「」=170」ハ一分

間ニ百七十歩ナルコトヲ知ラシムルニアリ

附錄

兵器保
存要領
喇叭ノ部

陸軍喇叭譜

兵器保存要領喇叭ノ部

目次

第一章 手入……………一

 第一節 常用品ノ手入……………一

 第一款 普通手入……………一

 第二款 精密手入……………四

 第二節 貯藏品ノ手入……………五

第二章 格納……………五

第三章 検査……………六

第四章 取扱上ノ注意……………七

兵器保存要領喇叭ノ部
第一類 第八編

第一章 手入

第一節 常用品ノ手入

第一款 普通手入

第一條 日常ノ手入ヲ分チテ毎日行フ手入、一箇月ニ少

クモ二回行フ手入及使用後行フ手入トス

一 毎日行フ手入左ノ如シ

口、伸縮管及其ノ他ノ部品ヲ離脱スルコトナク外

部及漏斗狀部ノ内部ヲ清潔ナル布片ヲ以テ拭淨スヘシ

二 口、伸縮管及開闔螺ヲ離脱シテ一箇月ニ少クモ

二 回行フ手入左ノ如シ

イ 自在環及開闔螺ノ鐵部ハ僅ニ含油セル布片ニテ拭淨スヘシ

ロ 口ノ外部、伸縮管外部及伸縮管ノ室ハ清潔ナル布片ヲ以テ拭淨スヘシ

ハ 口ノ内部ハ柔軟ナル紙片ヲ通シテ輕ク拭

淨スヘシ

三 使用後ノ手入ハ第一號ヲ準用スルノ外左ノ

如シ

イ 口ヲ離脱シテ唾液ヲ除去スヘシ

ロ 黃銅部ニ汗等附著シテ甚シク汚レタルトキハ含水布片ニテ拭淨シタル後乾キタル布片ヲ以テ充分拭フヘシ

ハ 雨雪等ニ際會シテ濕潤シタルトキハ乾キタル布片ヲ以テ充分水分ヲ拭除シタル後鐵

部ハ含油布片ニテ拭フヘシ

四

第一款 精密手入

第二條 黃銅部ニ汚點ヲ生シ甚シク外觀ヲ損スルモノハ眞鍮磨ヲ用ヒ除ニ拭淨スヘシ但シ眞鍮磨ハ金質ヲ減耗セシムルモノナルヲ以テ其ノ拭淨ハ汚點ヲ拭淨スルニ止ムハシ

第三條 喇叭ノ内部ニ甚シク污垢ノ附著シタルトキハ口及伸縮管ヲ離脱シテ水或ハ溫湯ヲ通シテ内部ヲ洗

滌シタル後水分ヲ充分除去スヘシ

第二節 貯藏品ノ手入

第四條 貯藏セル喇叭ノ手入ハ第一條第一號第二號及精密手入ヲ準用スルモノトス

第二章 格納

第五條 喇叭ヲ格納スルニハ飾紐ヲ離脱シ口及開闔螺ヲ緩メ戸棚或ハ箱内ニ格納シ塵埃ノ附著ヲ豫防スヘシ

五

第六條 飾紐、拭巾、握卷喇叭ニ附著セハ粉狀ナフタリンヲ挿入シテ戸棚或ハ箱内ニ格納シ虫害ヲ豫防スヘシ

第三章 検査

第七條 検査ニ當リ特ニ注意スヘキ事項左ノ如シ

- 一 各部ノ拭淨適當ナルヤ黄銅部ハ汚點ヲ存スルコトナキモノヲ良トシ磨粉等ヲ用ヒテ殊更ニ光輝ヲ發セシメタルモノハ不可ナリ
- 二 開闔螺ノ機能良好ナリヤ
- 三 口及伸縮管ノ離脱及裝著ハ圓滑ナルヤ

四 凹痕ナキヤ

五 鎖ハ完全ナリヤ

六 接合部ニ空氣ノ漏洩スルコトナキヤ

第四章 取扱上ノ注意

第八條 喇叭ハ軟質ノ金屬ヨリ成ルヲ以テ叮嚀ニ取扱フヲ要ス

第九條 喇叭ノ手入不充分ナルトキハ各部ノ機能ヲ害シ又微細ナル損傷ト雖モ音色ヲ甚シク損スルコトア

ルヲ以テ注意スヘシ

第十條 口及伸縮管内部ニ唾液停滯スルトキハ惡臭ヲ放チ且音調ヲ妨クルヲ以テ注意スヘシ

第十一條 黃銅部ハ唾液ノ飛沫、汗、水分等ノ爲汚點ノ生セサル如ク手入ヲ充分行フヲ要ス

第十二條 開闔螺ノ緊定ハ伸縮管ヲ保持スルヲ度トスヘシ但シ緊定強キニ失スルトキハ螺絲ヲ損傷スルモノトス

陸軍喇叭譜

陸普第二四六二號

陸軍喇叭譜別冊ノ通改正ス

明治四十三年六月四日

陸軍大臣 子爵 寺 内 正 毅

陸普第六八三號

陸軍喇叭譜中改正ノ件達

陸 軍 一 般

陸軍喇叭譜中後備隊喇叭譜ノ次ニ陸軍歩兵學校喇叭譜ヲ加フ

大正元年十月十一日

陸軍大臣 男爵 上 原 勇 作

陸軍喇叭譜 目 次

單(複)數號音	自	至
敬禮ノ部	一	二
軍隊學校ノ部	三	五
目課及諸號音ノ部	六	一三
招呼ノ部	一四	二〇
行進ノ部	二〇	二〇
	二一	二三

附 錄

陸軍喇叭吹奏歌

單(複)數號音

凡 例

- 一 複數ハ單數ヲ重複スヘシ但シ前ニ在ル通達點ヲ除ク
- 二 師、旅團聯隊等ノ如キ番號ヲ冠スルモノハ當該音ノ終リニ其ノ數ノ號音ヲ附スヘシ
- 三 教練(演習、學科、自習)終リノ號音ハ教練(演習、學科、自習)始メノ號音ノ終リニた音二聲ヲ附スヘシ
- 四 非常、火災等ノ演習ヲ行フトキハ當該號音ノ終リニた音三聲ヲ附スヘシ
- 五 曲譜ノ冒頭ニ記セル數字ハ吹奏ノ速度ヲ示スモノニシテ即チ ♩=114 ハ一分時間ニ百十四步ノ速度ナリ他ハ之ニ準ス

敬禮ノ部

君ケ代 (て皇及皇族ニ對)
スルトキ用フ

J=66.

Musical notation for '君ケ代' (Kimi no Yodai) in 2/4 time, marked J=66. It consists of three staves of music. The first staff begins with a treble clef and a common time signature 'C', which is then changed to 2/4. The melody is written in a single line.

哀ノ極 (御大喪ノ
トキ用フ)

J=66.

Musical notation for '哀ノ極' (Aino Gokoku) in 2/4 time, marked J=66. It consists of three staves of music. The first staff begins with a treble clef and a common time signature 'C', which is then changed to 2/4. The melody is written in a single line.

六

Musical notation for measure 6 in 2/4 time, featuring a treble clef and a single line of music.

七

Musical notation for measure 7 in 2/4 time, featuring a treble clef and a single line of music.

八

Musical notation for measure 8 in 2/4 time, featuring a treble clef and a single line of music.

九

Musical notation for measure 9 in 2/4 time, featuring a treble clef and a single line of music with a triplet of eighth notes.

十

Musical notation for measure 10 in 2/4 time, featuring a treble clef and a single line of music with a triplet of eighth notes.

十五

Musical notation for measure 15 in 2/4 time, featuring a treble clef and a single line of music with a triplet of eighth notes.

二十

Musical notation for measure 20 in 2/4 time, featuring a treble clef and a single line of music.

三十三

Musical notation for measure 33 in 2/4 time, featuring a treble clef and a single line of music.

國ノ鎮メ (拜神ノトキ用フ)

J=88.

Musical notation for '國ノ鎮メ' (Kuni no Chinme), featuring two staves of music in common time (C) with a tempo marking of J=88. The melody is written on a treble clef staff, and the accompaniment is on a bass clef staff.

吹ナス笛 (一般葬禮ノトキ用フ)

J=66.

Musical notation for '吹ナス笛' (Fue nasu), featuring two staves of music in common time (C) with a tempo marking of J=66. The melody is written on a treble clef staff, and the accompaniment is on a bass clef staff.

足曳 (軍隊ニ對スルトキ用フ)

J=88.

Musical notation for '足曳' (Ashi hiki), featuring two staves of music in common time (C) with a tempo marking of J=88. The melody is written on a treble clef staff, and the accompaniment is on a bass clef staff.

海行カハ (將官ニ對スルトキ用フ)

J=114.

Musical notation for '海行カハ' (Umi yuki ka ha), featuring two staves of music in 2/4 time with a tempo marking of J=114. The melody is written on a treble clef staff, and the accompaniment is on a bass clef staff. The accompaniment includes triplet markings (3).

皇御國 (軍隊相逢フトキ用フ)

J=114.

Musical notation for '皇御國' (Kōmiko), featuring three staves of music in 2/4 time with a tempo marking of J=114. The melody is written on a treble clef staff, and the accompaniment is on two bass clef staves.

野砲兵旅團



野砲兵聯隊



山砲兵大隊



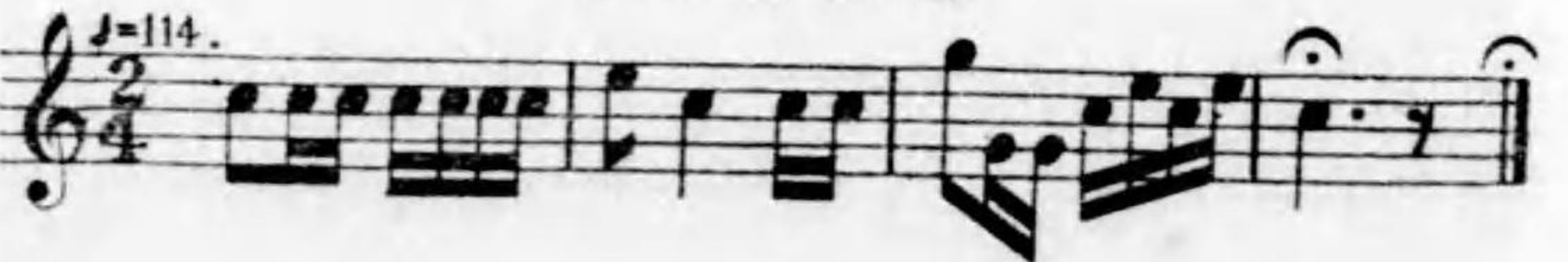
騎砲兵隊



工兵大隊

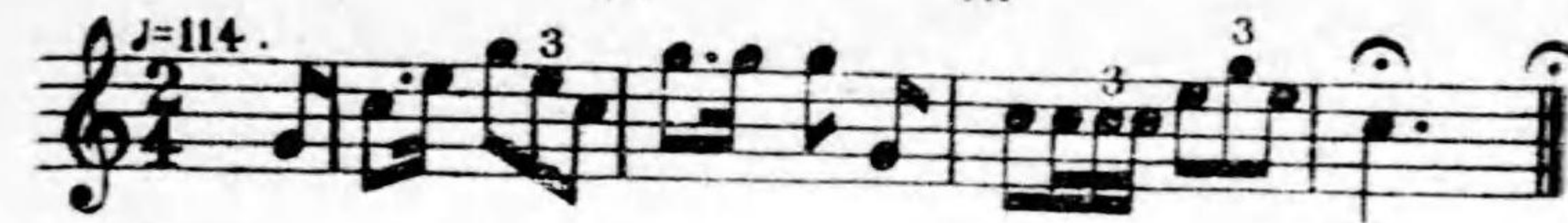


輜重兵大隊

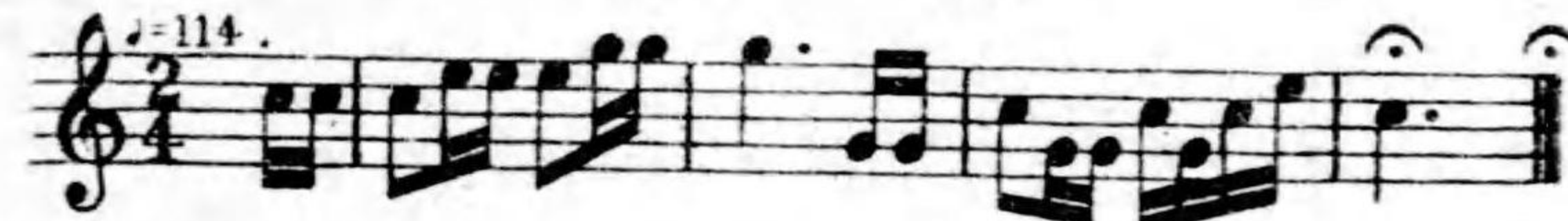


軍隊學校ノ部

近衛



師團



歩兵旅團



歩兵聯隊



騎兵旅團



騎兵聯隊



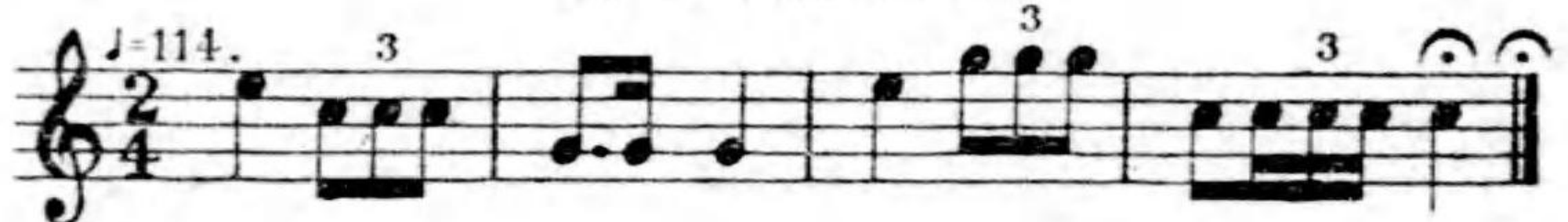
舞鶴重砲兵大隊



藝祿重砲兵大隊



對馬重砲兵大隊



佐世保重砲兵大隊



長崎重砲兵大隊



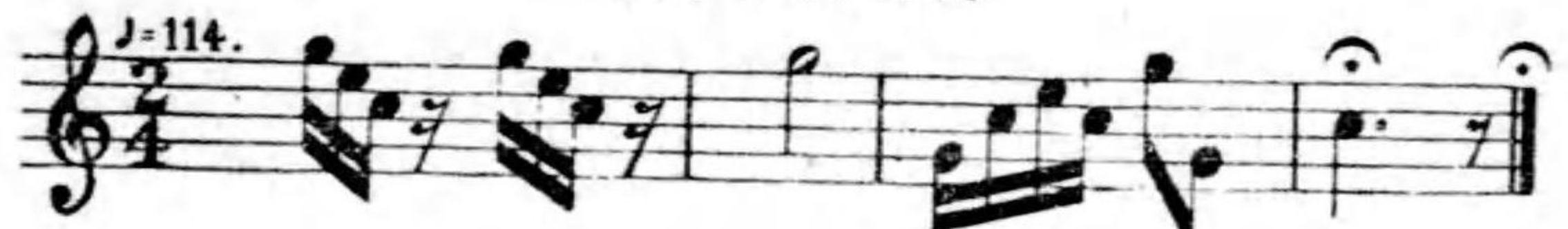
基隆重砲兵大隊



軍樂隊



臺灣步兵聯隊



臺灣山砲兵中隊



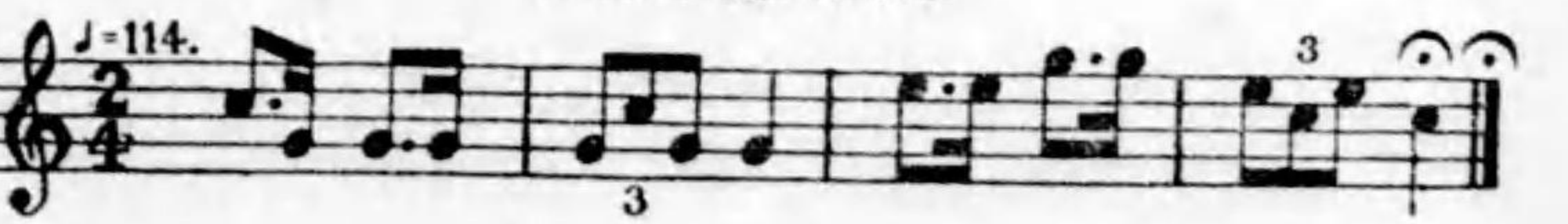
重砲兵旅團



重砲兵聯隊



函館重砲兵大隊



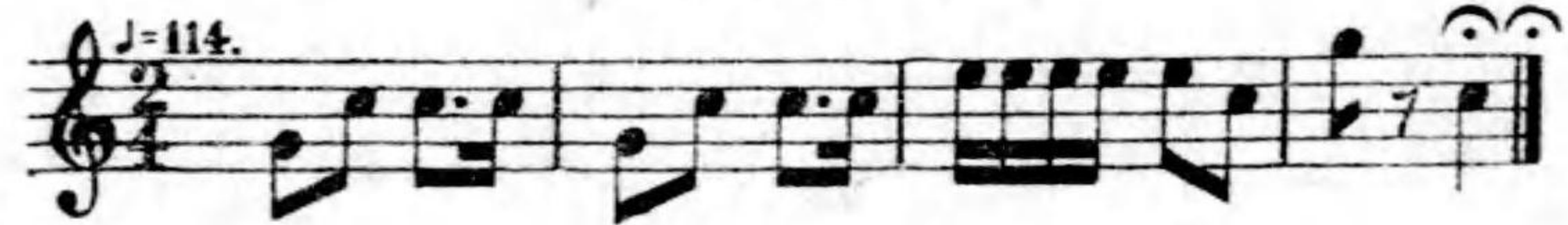
氣 球 隊



對馬警備步兵大隊



陸軍總治隊



獨立守備大隊



臨時韓國派遣步兵聯隊



樺太守備步兵隊



澎湖島重砲兵大隊



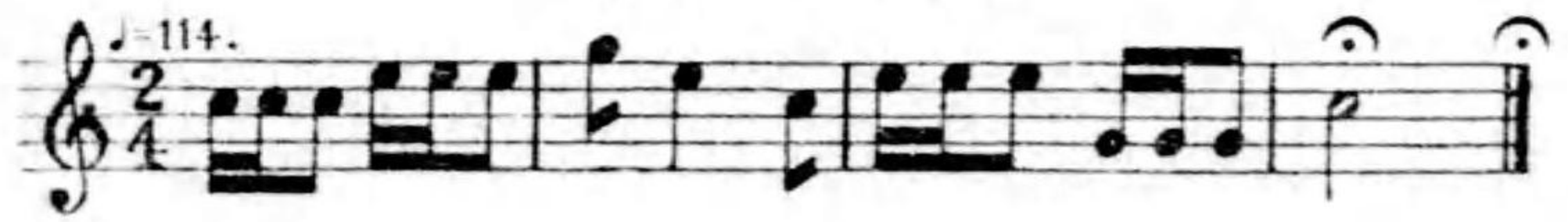
旅順重砲兵大隊



鎮海灣重砲兵大隊



交通兵旅團



鐵道聯隊



電 信 隊



陸軍野戰砲兵射擊學校



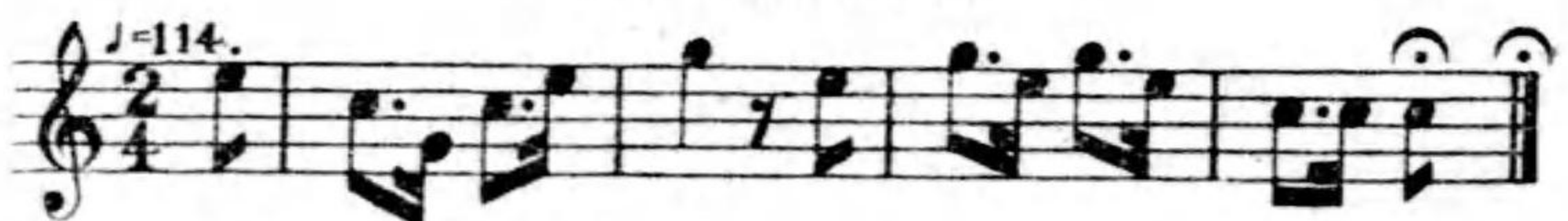
陸軍重砲兵射擊學校



陸軍士官學校



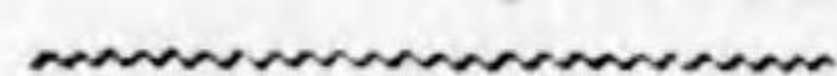
陸軍中央幼年學校



陸軍地方幼年學校



陸軍經理學校



大 隊



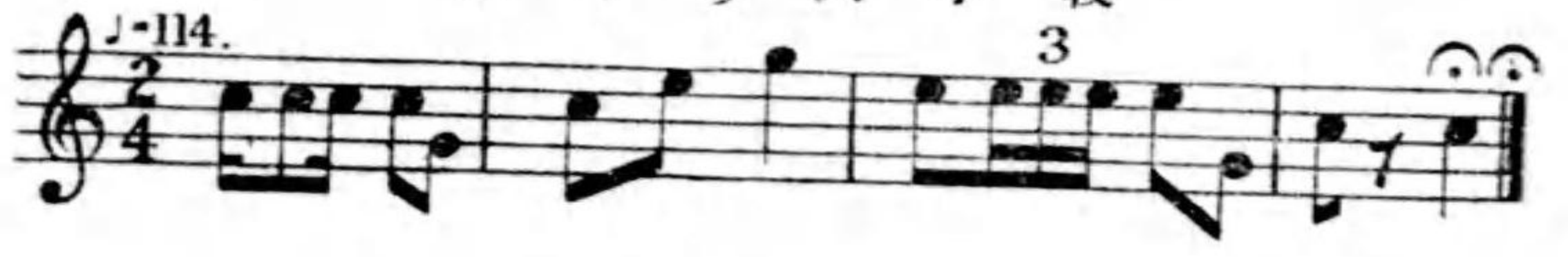
中 隊



後 備 隊



陸 軍 步 兵 學 校



陸 軍 戶 山 學 校



陸 軍 騎 兵 實 施 學 校



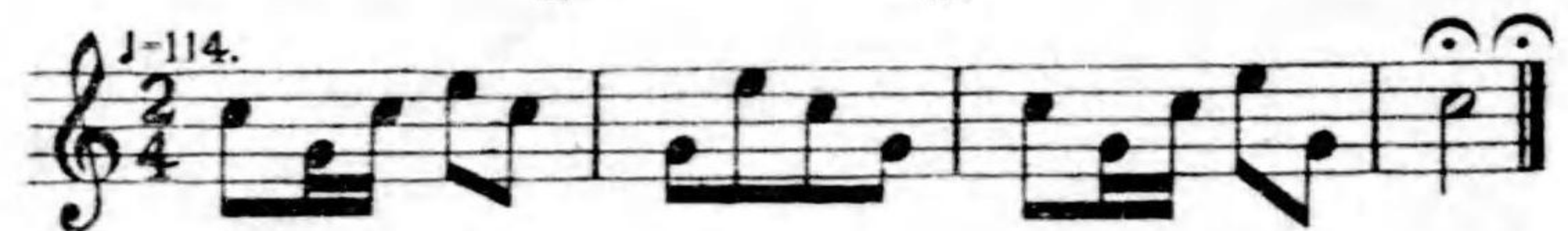
食 事



診 斷



會 報



命 令



衛 兵 支 度



日 課 及 諸 號 音 ノ 部

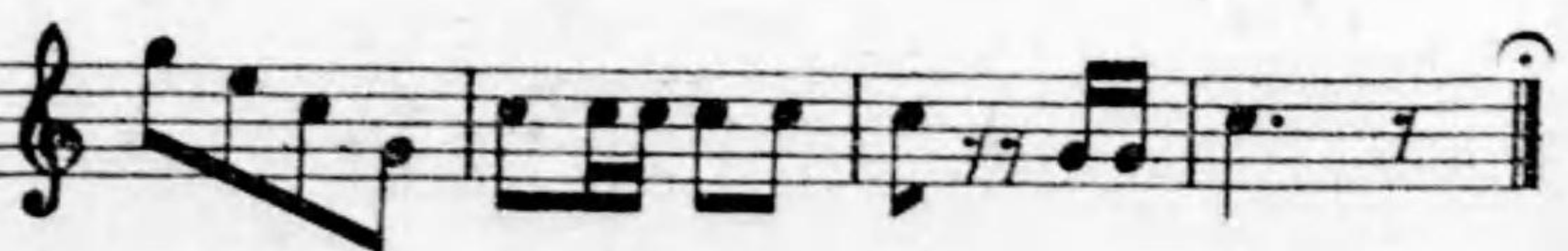
起 床



點 呼



手 入



休 々

解 散

故 々

前 々

止 々

常 步

呼 集

消 燈

非 常

火 災

教練(演習,學科,自習)始メ

氣ヲ付ケ

打方始メ



打方止メ



打方待テ



集 合



突 撃 (襲 撃)



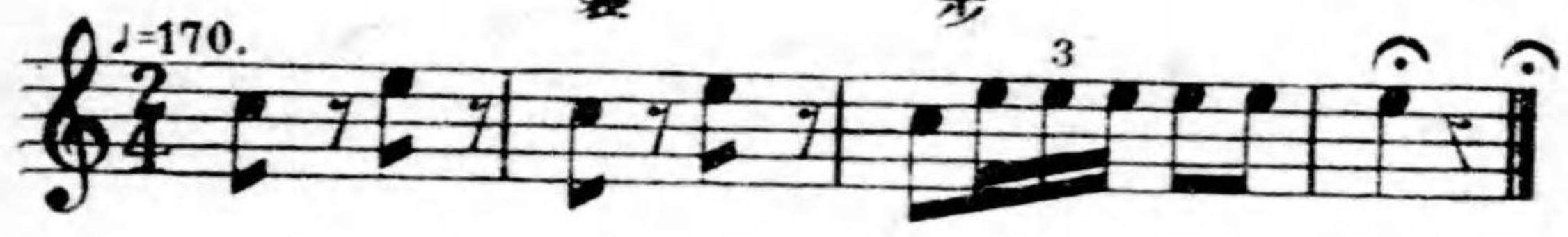
速 歩



断 歩



襲 歩



途 歩



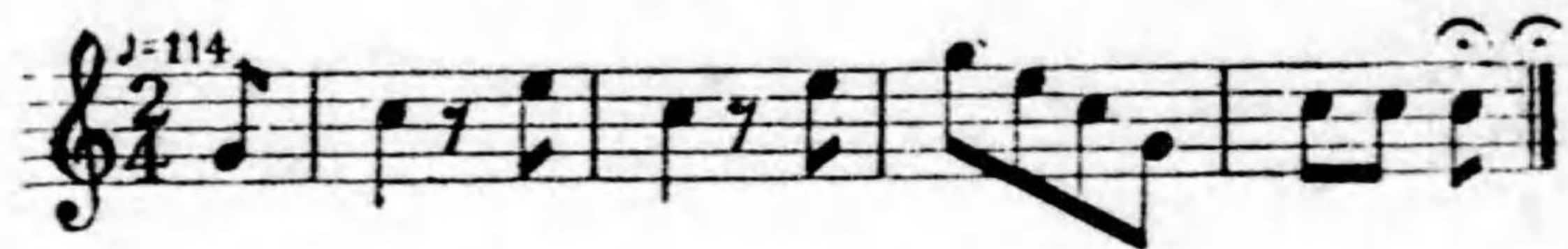
右



左



喇叭手



行進ノ部

速步行進(其一)



拔刀(著劍)



歸營



招呼ノ部

團隊長



將校



週番



驅步行進

♩=170.

Four staves of music in 2/4 time, marked with a tempo of quarter note = 170. The music features a rhythmic pattern of eighth and sixteenth notes.

送葬行進

♩=76.

Three staves of music in 2/4 time, marked with a tempo of quarter note = 76. The music is characterized by a slow, solemn melody with long note values.

速步行進(其二)

♩=114.

Five staves of music in 2/4 time, marked with a tempo of quarter note = 114. The music is a lively march with a consistent eighth-note rhythmic pattern.

皇 御 國

すめらみくに
皇御國の。ものゝふは。いかなること
をか。つとむへき。たゝ身にもてる。
まこゝろを。わか大君につくすまで。

國 の 鎮 め

國の鎮めの。みやしろと。いつきまつ
らふ。神みたま。けふのまつりの。に
きはひを。あまかけりても。みそなは
せ。治まる御代をまもりませ。

ふ き な す 笛

ふきなす笛の。そのをとも。さいくる
旗の。そのいろも。ものゝあはれを。
しりかほに。けふはものこそ。かなし
けれ」千百萬の。敵軍も。とりて來ぬ
へき。ますらをと。おもへる我等か裡
までも。涙の雨にぬれにけり。

附 録

陸軍喇叭吹奏歌

君 か 代

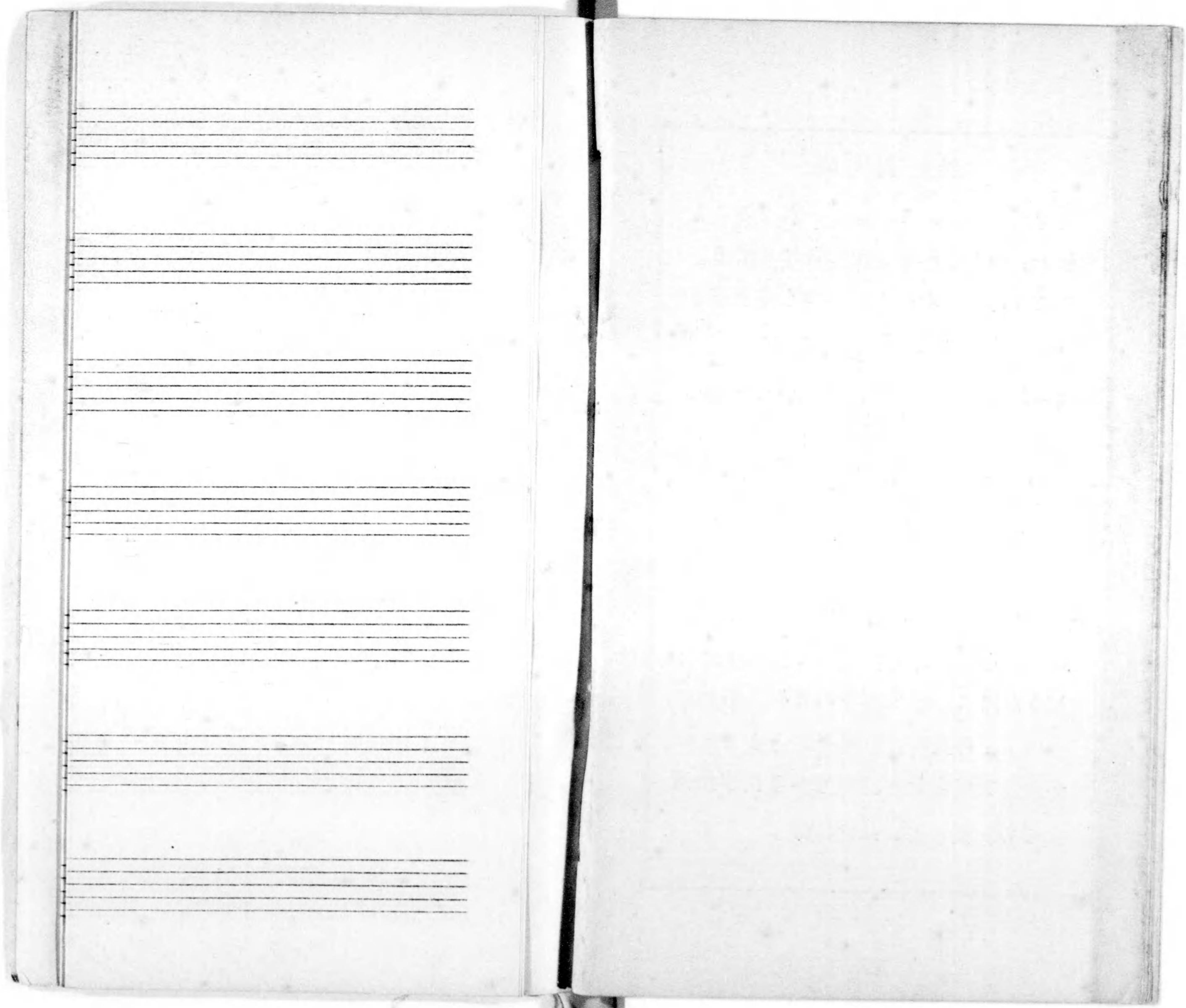
君か代は。千代に八千代に。さいれ石
の。いはほとなりて。こけのむすまで。

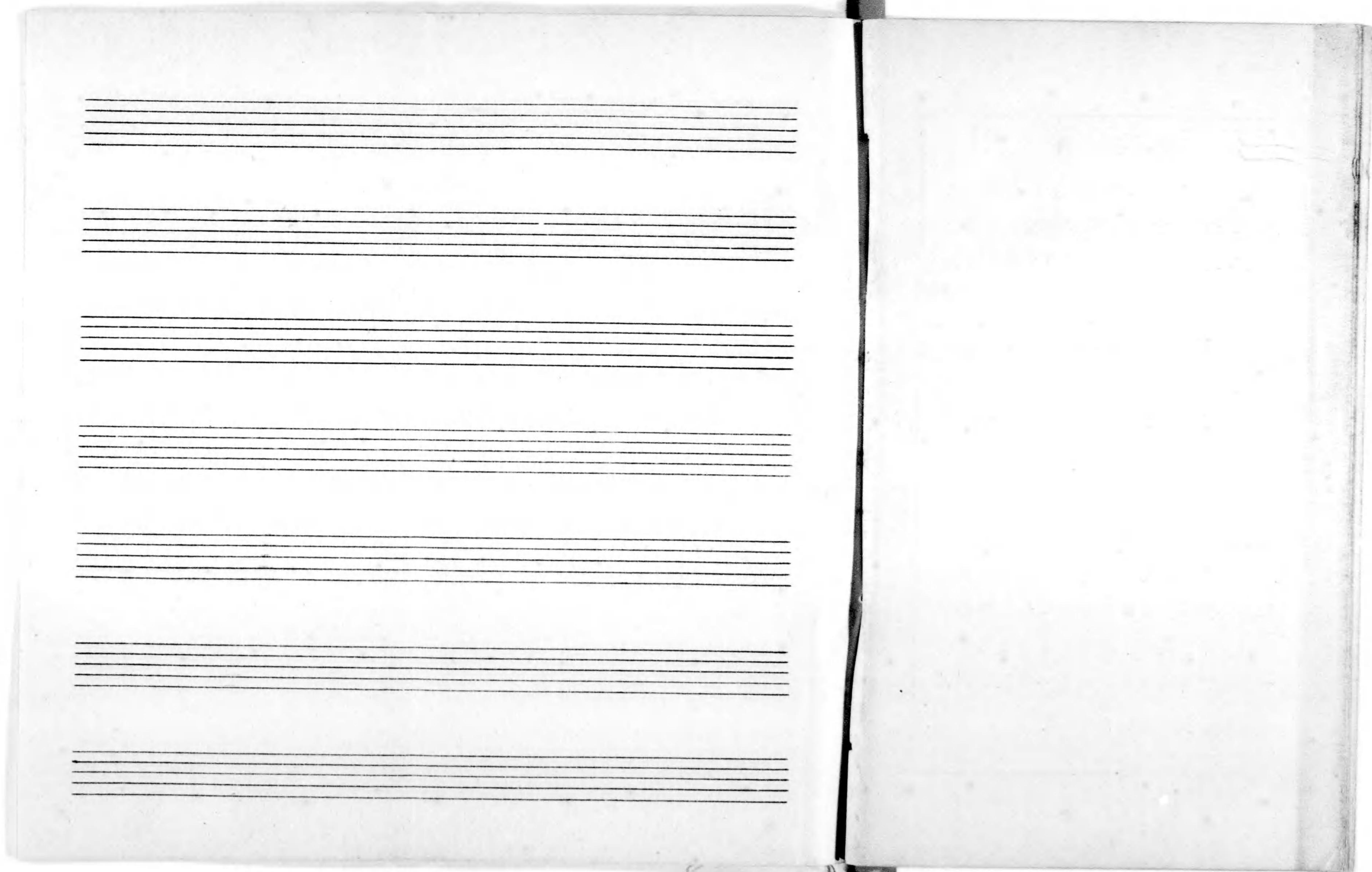
足 曳

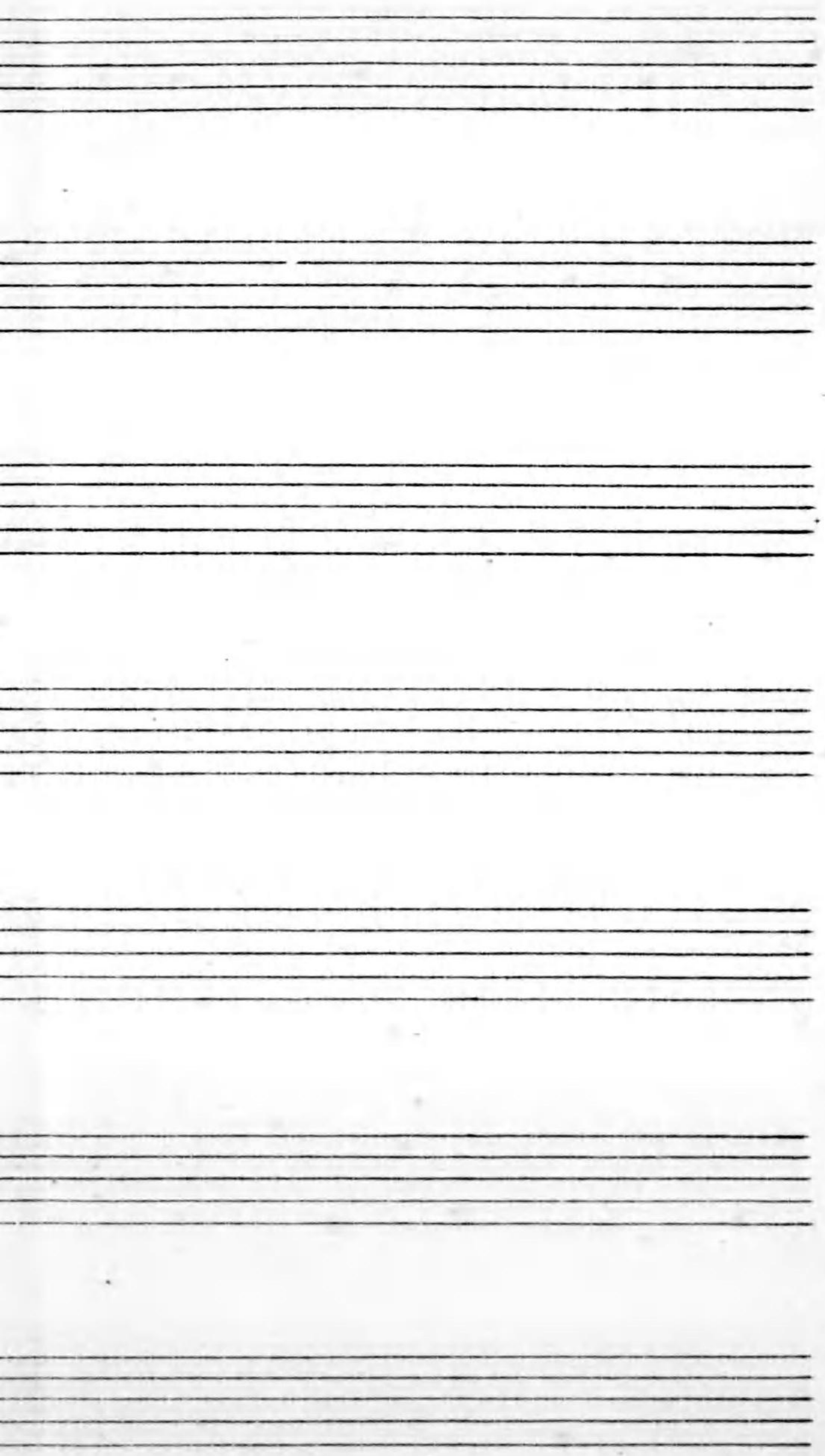
あしひきの。山邊とよもす。つゝの火
の。煙のうちに。いちしるく。きほへ
る旗は。かしこきや。わか大君の。御
手つから。授けたまへる。みいくさ御軍の。し
るしの旗そ。ともわか輩の。いくさ軍の神そ。わ
かとも。軍の神と。あふきつゝ。す
ゝめやすゝめ。ますらをのとも。

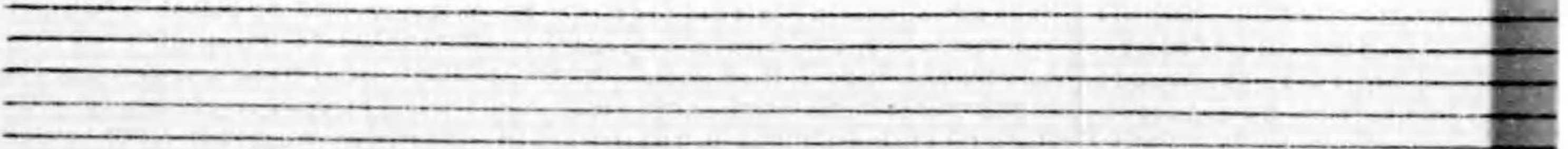
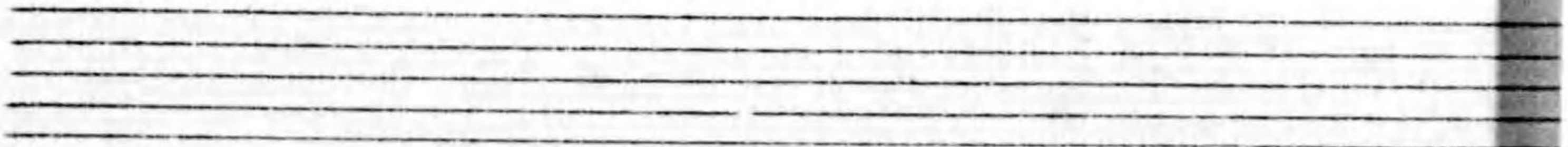
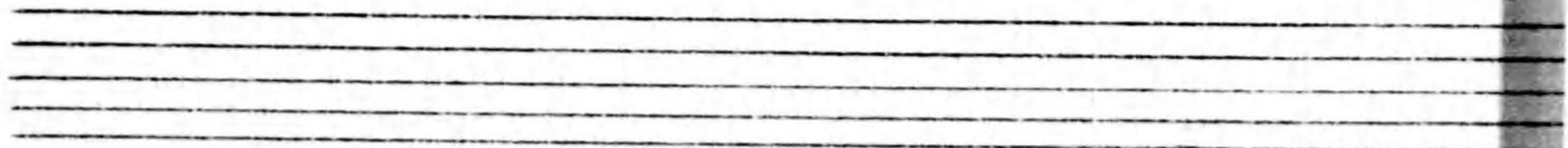
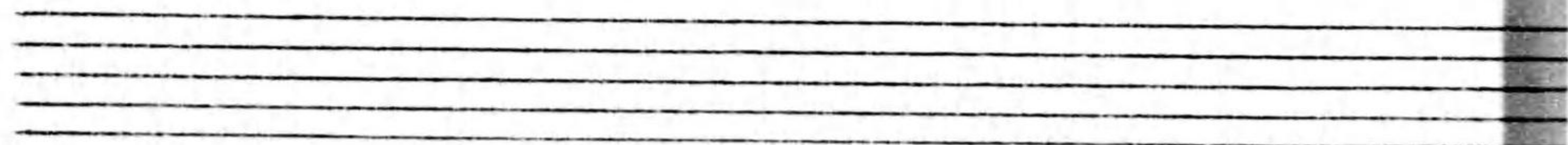
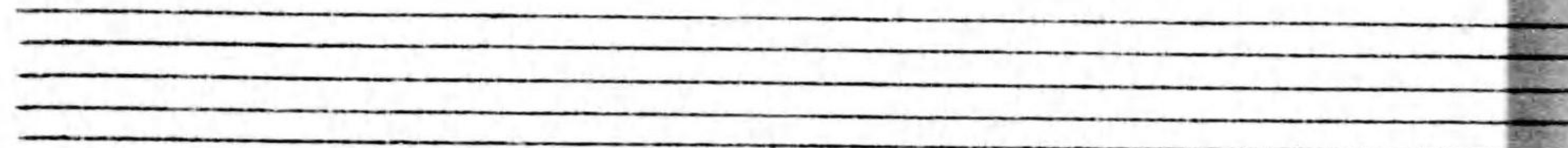
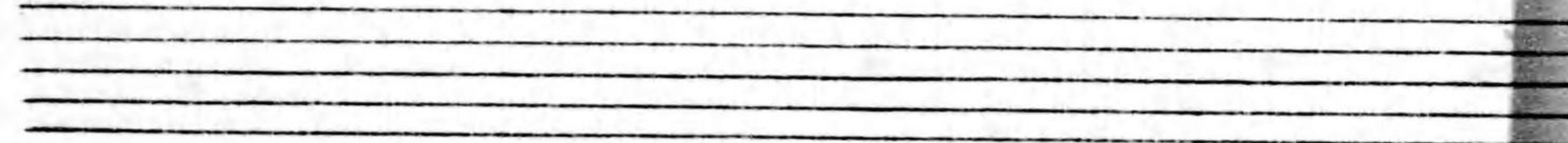
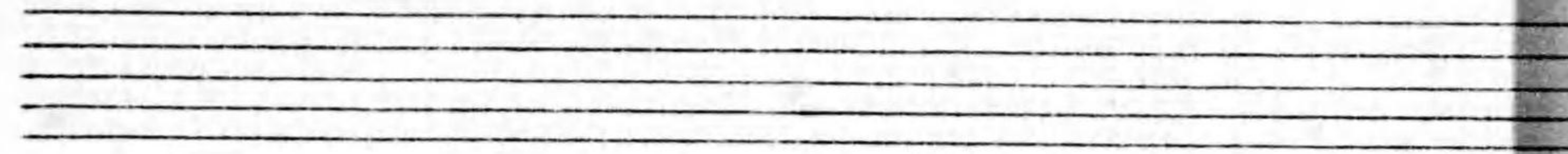
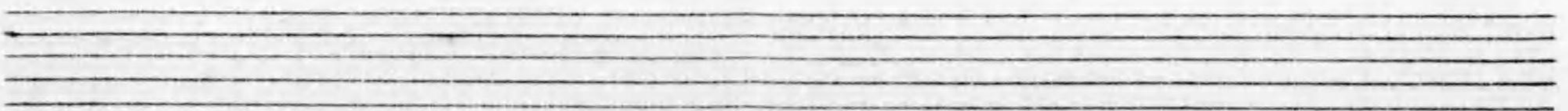
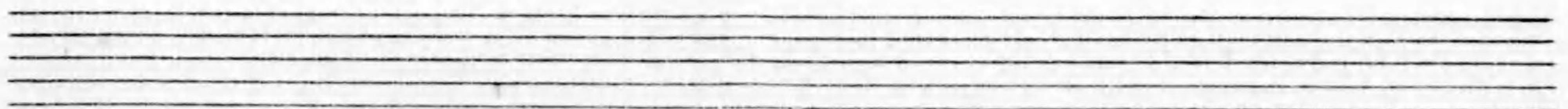
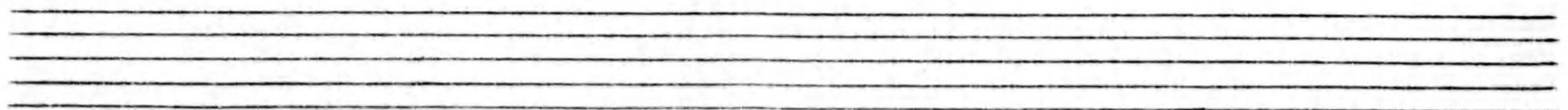
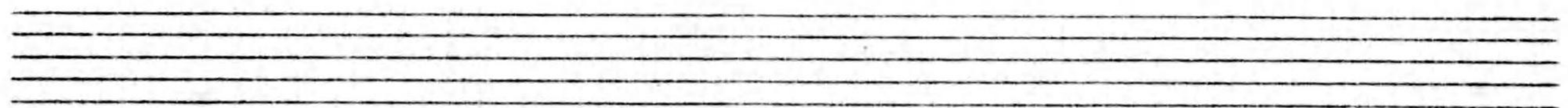
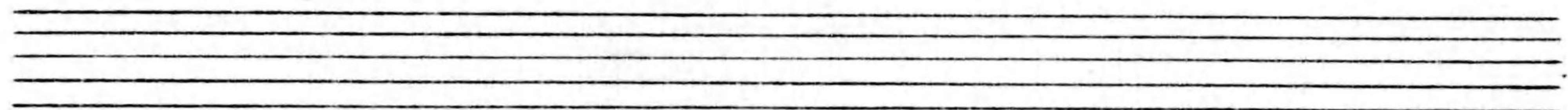
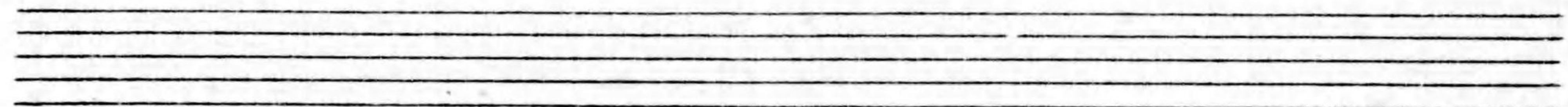
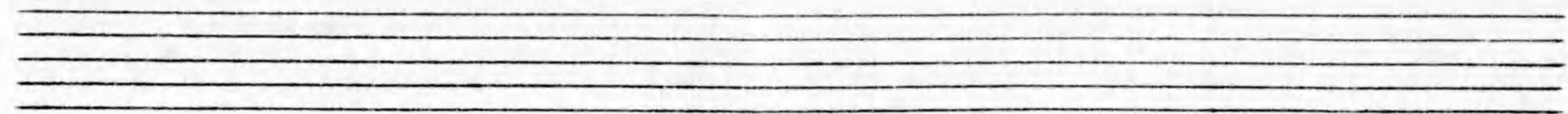
海 ゆ か は

海ゆかは。みつくかはね。やまゆかは。
くさむすかはね。ねほ君の。へにこそ
しなめ。のとはしなし。

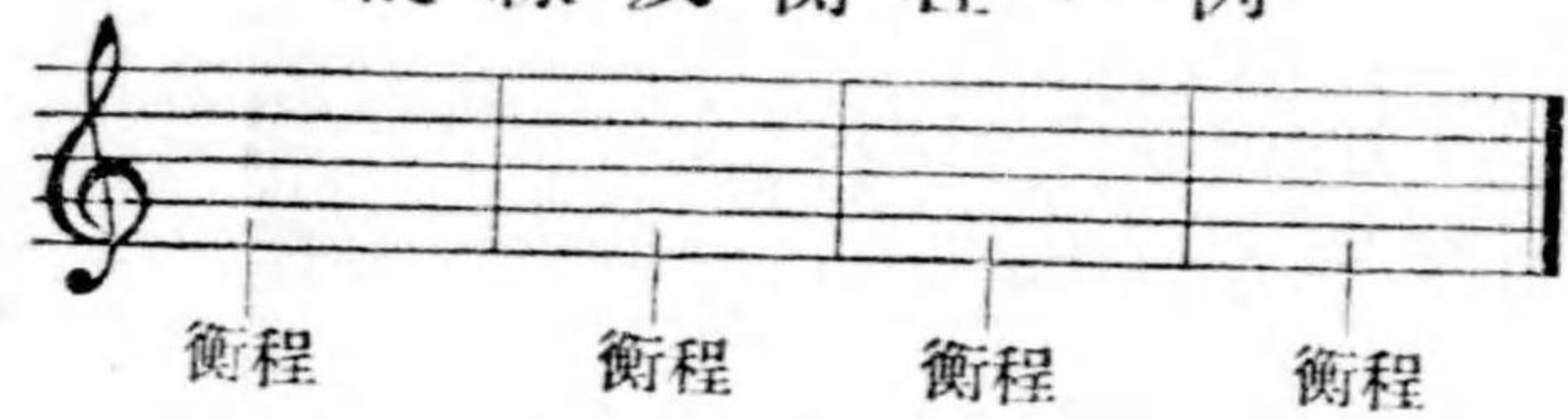








第五圖
縱線及衡程ノ例



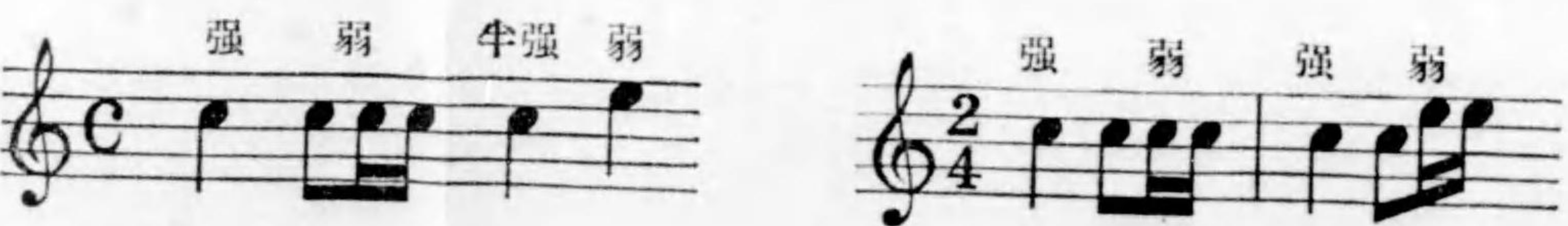
第六圖
複(返)奏記號ノ例



第七圖
拍子記號ノ例



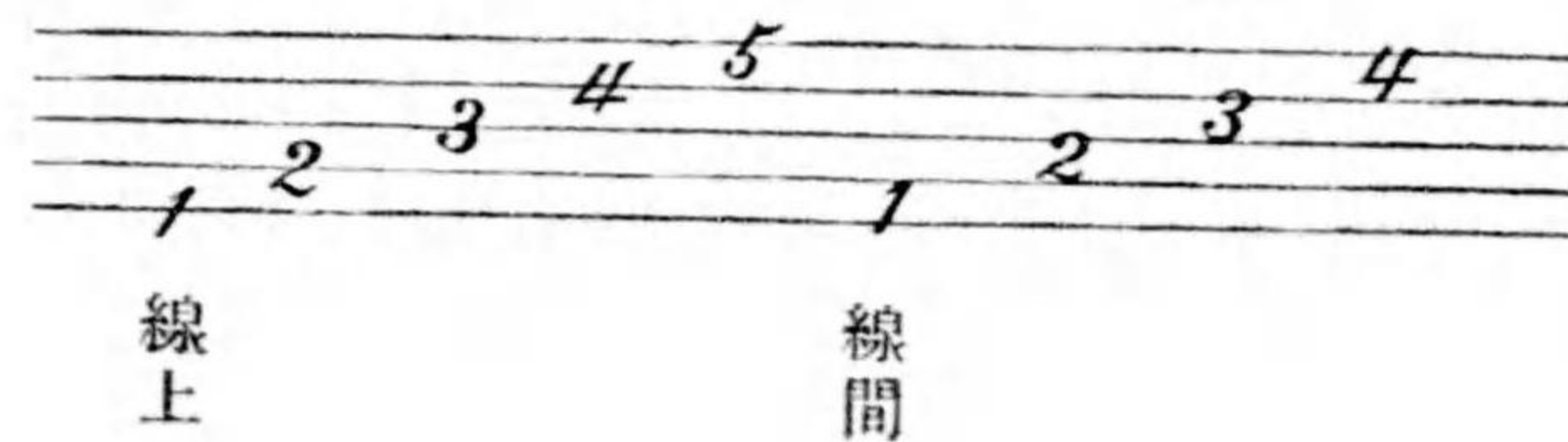
第八圖
舉動性質ノ例



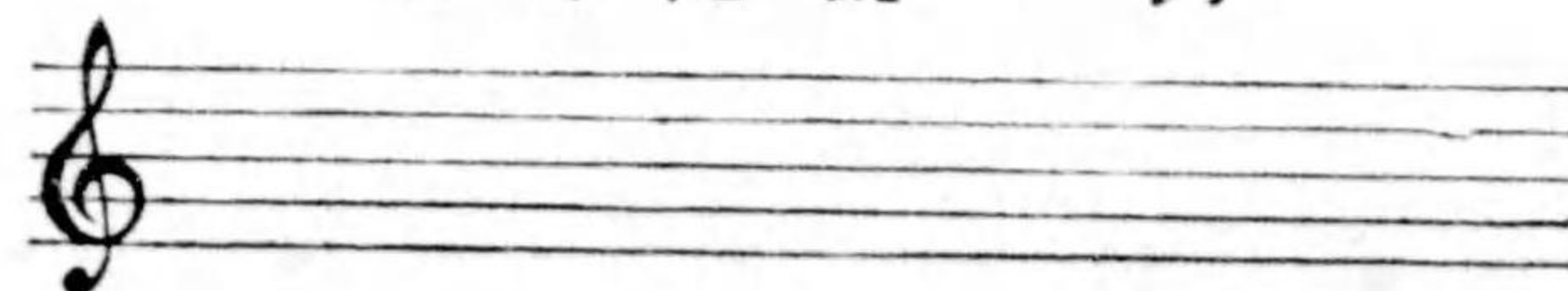
第一圖
三連符ノ例



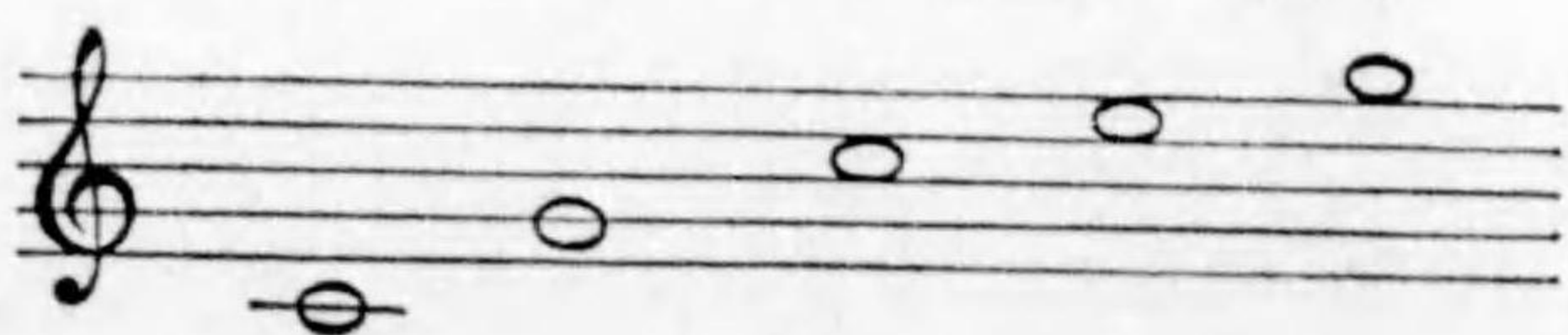
第二圖
譜表ノ例



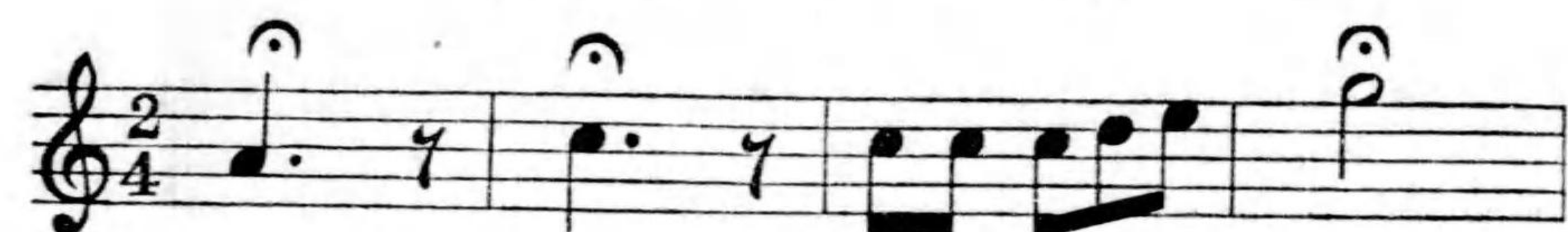
第三圖
音部記號ノ例



第四圖
圓符 = テ示シタル五音ノ位置



第十三圖
通達點ノ例



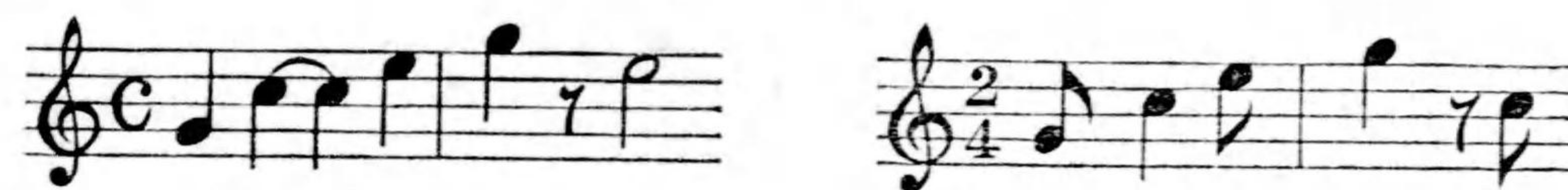
第十四圖
停帶點ノ例



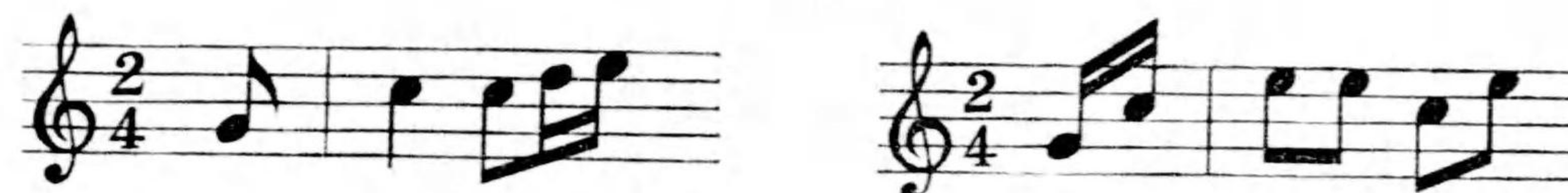
第十五圖
舌旋法ノ例



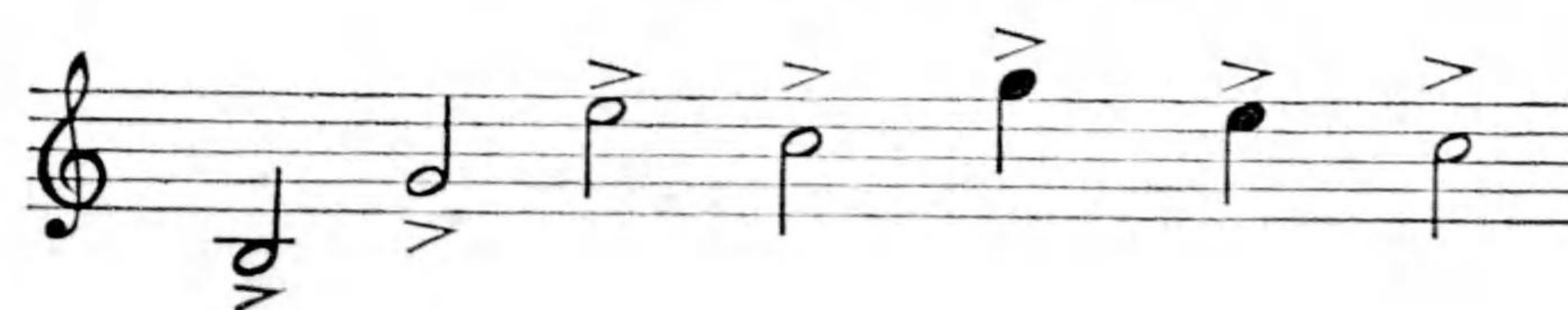
第九圖
移遷舉動ノ例



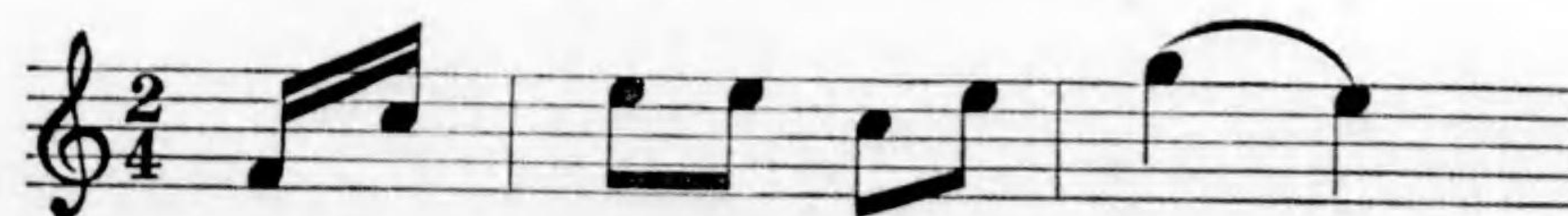
第十圖
拐遷舉動ノ例



第十一圖
正節記號ノ例



第十二圖
連接ノ例



縱
衡程

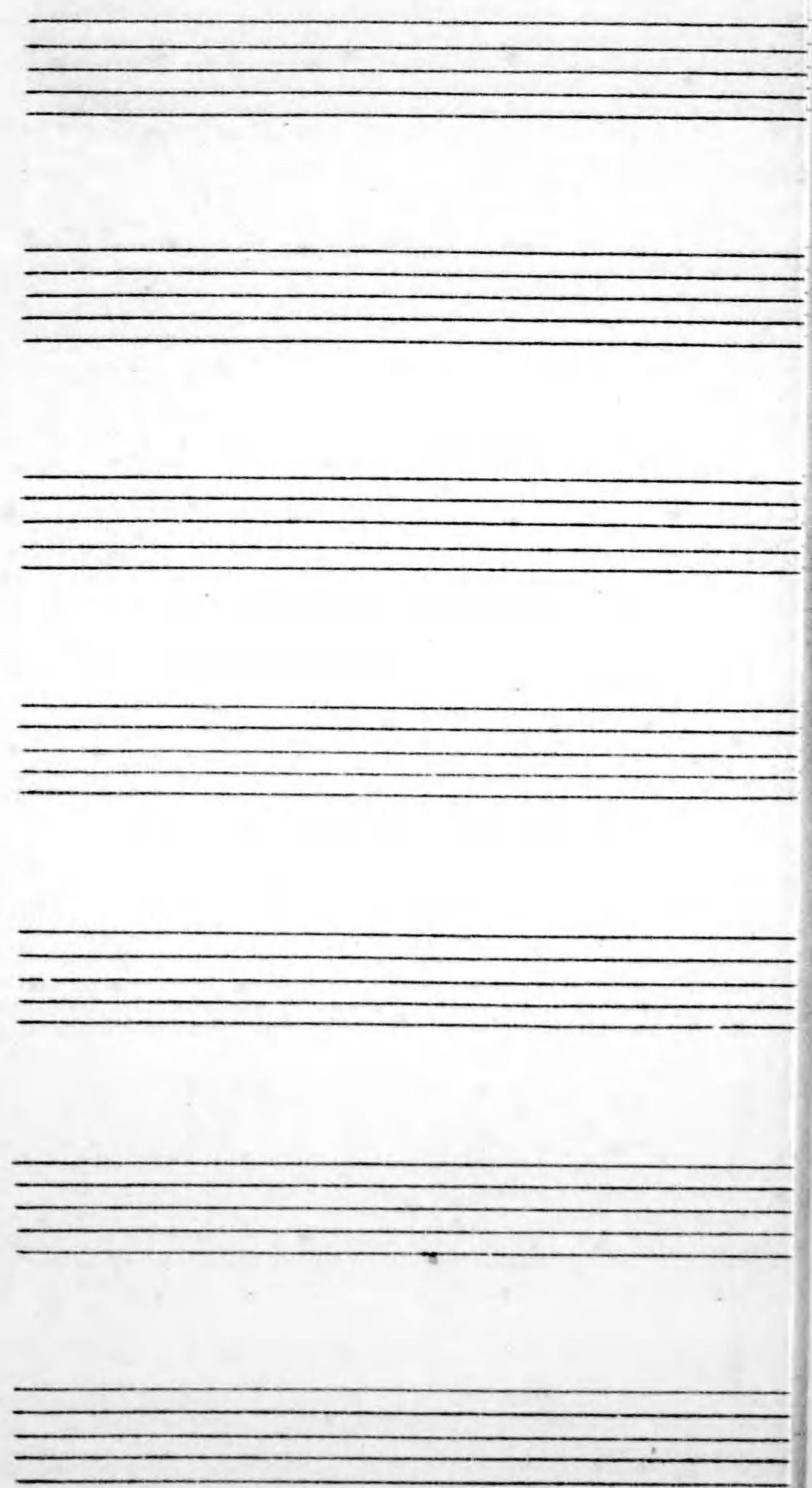
複

拍

二拍子記號

舉

強 弱 半強



大正三年十一月二十日印刷
大正三年十二月五日發行

喇叭手及喇叭修業兵之友與附
【定價金貳拾五錢】



著者 武聲居士
發行者 本郷區湯島天神町一丁目八十二番地 當麻錄三郎
印刷者 芝區西久保櫻川町十七番地 山田三次郎
印刷所 同 山田活版所

發行所

東京市本郷湯島天神町一丁目八十二番地
三一 伸堂

振替口座東京二八六八七番

278
85

終

